

Enterprise Vault™ PST 移行

12.3

Enterprise Vault™: PST 移行

最終更新日: 2018-03-27。

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator は、Veritas Technologies LLC または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティソフトウェア (「サードパーティプログラム」) が含まれる場合があります。一部のサードパーティプログラムはオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスの下で利用できます。ソフトウェアに付属している使用許諾契約は、それらのオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスで規定されている権利または義務を変更するものではありません。この Veritas 製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

文書は「現状有姿のまま」提供され、市販性、特定目的との適合性または権利を侵害していないことを含むすべての明示または黙示の条件、表明および保証は、そのような免責が法的に無効であるとされた場合を除き、免責されます。VERITAS TECHNOLOGIES LLC は本書の供給、実行、または使用に関連した付随的、間接的な損害に対する責任を負わないものとします。本書に含まれる情報は、事前の通知なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR セクション 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により、ベリタスがオンプレミスとして提供したか、ホストサービスとして提供したかにかかわらず、制限された権利の対象となります。米国政府による本ソフトウェアの使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<https://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と、その時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートに連絡する方法について詳しくは、次の当社の Web サイトを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関して当社に問い合わせる場合は、次に示すご利用の地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

全世界 (日本以外)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

テクニカルサポートに連絡する前に、Veritas Quick Assist (VQA) ツールを実行して製品のマニュアルに記載されているシステムの必要条件を満たしていることを確認してください。VQA は Veritas サポート Web サイトの次の記事からダウンロードできます。

https://www.veritas.com/support/en_US/vqa

マニュアル

最新版のマニュアルを確認してください。各マニュアルの 2 ページ目に最終更新日が表示されています。最新のマニュアルは Veritas の Web サイトで入手できます。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100040095

マニュアルのフィードバック

お客様のフィードバックは当社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの間違い、脱字などのご報告をお願いします。その際、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。フィードバックは次のアドレスに送信してください。

evdocs@veritas.com

次の Veritas コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<https://www.veritas.com/community>

目次

第 1 章	本書について	6
	このマニュアルについて	6
	Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先	6
	Enterprise Vault トレーニングモジュール	9
第 2 章	PST 移行の概要	10
	PST ファイル移行の導入	10
	PST ファイルの移行に使うツール	11
	PST 移行ツールの機能比較	11
	Exchange PST 移行ポリシーについて	12
	PST のファイルの内容をアーカイブする場合のパフォーマンスの向上	13
	ホスト環境での PST ファイルの移行	14
	[個人用ストアの管理]ノードについて	15
	フィルタの作成	16
第 3 章	PST ファイルの所有権	18
	PST ファイルの所有権について	18
	PST ファイル所有者を判断するための PST ファイルのマーク付け	19
	PST ファイルの所有権を判断する PST メッセージのサンプリング	20
	PST ファイルの所有権を判断するメッセージサンプリングの設定	21
	メッセージサンプリングの結果	23
第 4 章	PST 移行: スクリプト	25
	PST 移行のスクリプトメカニズムの概要	25
	Policy Manager を使った PST 移行処理の実行	26
	PST スクリプトによる移行の準備	28
	PST 移行からの出力	29
	[PSTcheckpoint]セクションのスクリプトによる PST 移行	29
	スクリプトによる PST 移行の Enterprise Vault イベントログ	31
	PST スクリプトによる移行のサンプル初期化ファイル	32

第 5 章	PST 移行: ウィザードの使用	34
	PST 移行ウィザードについて	34
	ウィザードによる PST 移行処理の概略	35
	ウィザードによる PST 移行処理の準備	37
	ウィザードによる PST 移行処理に関するヒント	38
	ウィザードを使った PST の移行処理によるユーザーへの影響	40
	ウィザードによる PST 移行処理の開始	41
第 6 章	PST 移行検索および移行	42
	検索と移行について	42
	PST 検索移行型ツールの設定	43
	PST の検索と移行を管理するために必要な管理者ロール	43
	PST 検索および移行の保存フォルダの設定	44
	PST 検索、PST 収集、PST 移行タスクの作成と設定	46
	PST 検索移行型ツールを使った PST ファイルの移行	50
	PST 検索タスクの実行によるドメインとコンピュータの検索	52
	PST 検索のコンピュータの選択	57
	PST 検索に含むまたは除外するパスの設定	58
	PST 検索タスクの実行による PST ファイルの検索	59
	PST 収集タスクの実行	63
	PST 移行タスクの実行	63
	PST 移行の PowerShell コマンドレット	64
	PstLocatorTask.exe.config 設定ファイルを使用した PST 移行からのネット ワーク共有の除外	67
	PST 移行のトラブルシューティング	67
第 7 章	PST 移行: クライアント主導型移行	69
	クライアント主導型の PST 移行について	69
	クライアント主導型 PST 移行を設定するオプション	70
	クライアント主導型 PST 移行のための準備	71
	クライアント主導型 PST 移行での PST 移行メッセージの編集	72
	クライアント主導型 PST 移行のための PST 保存フォルダの設定	73
	クライアント主導型 PST 移行のための PST 移行タスクの作成	74
	クライアント主導型 PST 移行のためのメールボックスの有効化	75
	PST ファイル提出のためのメールボックスの有効化	76
	ネットワークドライブに保存されている PST ファイルの移行に必要な権限	77

本書について

この章では以下の項目について説明しています。

- [このマニュアルについて](#)
- [Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先](#)

このマニュアルについて

このガイドでは、PST ファイルの内容を Enterprise Vault に移行およびアーカイブする方法を説明します。管理者は、PST ファイルを自動移行するように、またはエンドユーザーが PST ファイルを Enterprise Vault に移行するかを選択できるように Enterprise Vault を設定できます。

Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先

[表 1-1](#) に、Enterprise Vault に付属のマニュアルの一覧を示します。このマニュアルは、Veritas [ドキュメントライブラリ](#) から PDF および HTML 形式でも入手可能です。

表 1-1 Enterprise Vault マニュアルセット

マニュアル	コメント
Veritas Enterprise Vault ドキュメントライブラリ	<p>横断検索の可能な Windows のヘルプ (.chm) 形式の次のドキュメントがすべて含まれています。Acrobat (.pdf) 形式のマニュアルへのリンクも含まれています。</p> <p>このライブラリには、次を含む複数の操作でアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Windows エクスプローラで Enterprise Vault インストール先フォルダのサブフォルダ Documentation¥language¥Administration Guides を参照し、EV_Help.chm ファイルを開きます。 ■ 管理コンソールの[ヘルプ]メニューで[Enterprise Vault のヘルプ]をクリックします。
導入および計画	Enterprise Vault の機能の概要を説明します。
Deployment Scanner	Enterprise Vault をインストールする前に必要なソフトウェアと設定を確認する方法を説明します。
インストールおよび設定	Enterprise Vault の設定に関する詳細な情報を提供します。
アップグレードの手順	既存の Enterprise Vault インストールを最新バージョンにアップグレードする方法を説明します。
Domino サーバーアーカイブの設定	Domino メールファイルとジャーナルデータベースからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
Exchange Server アーカイブの設定	Microsoft Exchange ユーザーメールボックス、ジャーナルメールボックス、パブリックフォルダからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
ファイルシステムアーカイブ (FSA) の設定	ネットワークファイルサーバーに保存されているファイルをアーカイブする方法を説明します。
IMAP の設定	Exchange アーカイブとインターネットメールアーカイブへの IMAP クライアントアクセスを設定する方法を説明します。
SharePoint Server アーカイブの設定	Microsoft SharePoint サーバーの文書をアーカイブする方法を説明します。
Skype for Business のアーカイブの設定	Skype For Business のセッションをアーカイブ化する方法を説明します。
SMTP アーカイブの設定	他のメッセージングサーバーから SMTP メッセージをアーカイブする方法を説明します。

マニュアル	コメント
Microsoft ファイル分類インフラストラクチャを使用した分類	Windows Server の新しいエディションに組み込まれた分類エンジンを使用して、新規と既存のすべてのアーカイブ済みコンテンツを分類する方法について説明します。
Veritas Information Classifier を使用した分類	Veritas Information Classifier を使用して、業界標準の分類ポリシーの包括的なセットを基準に新規とアーカイブ済みのすべてのコンテンツを評価する方法について説明します。Enterprise Vault を使用した分類を初めて行う場合は、以前の直観的でないファイル分類インフラストラクチャエンジンではなく、Veritas Information Classifier の使用をお勧めします。
管理者ガイド	日常的な管理を実行する方法を説明します。
PowerShell コマンドレット	Enterprise Vault PowerShell コマンドレットを実行して、さまざまな管理タスクを実行する方法を説明します。
監査	Enterprise Vault サーバー上でイベントの監査情報を収集する方法を説明します。
バックアップと回復	システムエラーが起きた場合にデータ損失を防止する効果的なバックアップ戦略の実装方法や、回復手段を利用する方法を説明します。
レポート	Enterprise Vault サーバー、アーカイブ、アーカイブ済みアイテムの状態に関するレポートを提供する、Enterprise Vault Reporting の実装方法を説明します。FSA レポートを設定すると、ファイルサーバーとそのボリューム用の追加レポートを利用できます。
NSF 移行	Domino ファイルと Notes NSF ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブにインポートする方法を説明します。
PST 移行	Outlook PST ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブに移行する方法を説明します。
ユーティリティ	Enterprise Vault のツールとユーティリティについて説明します。
レジストリ値	レジストリ値を一覧表示している参照用の文書で、さまざまな側面から Enterprise Vault の動作を修正する場合に使うことができます。
管理コンソールのヘルプ	Enterprise Vault 管理コンソールのヘルプ。
Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ	Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ。

サポートされているデバイスとソフトウェアのバージョンの最新情報について詳しくは、『Enterprise Vault [Compatibility Charts](#)』を参照してください。

Enterprise Vault トレーニングモジュール

Veritas 教育サービスでは、基本的な管理から詳細トピック、トラブルシューティングまで、Enterprise Vault の包括的なトレーニングを提供します。教室でのトレーニングや仮想トレーニングなど、さまざまな形式でトレーニングできます。

Enterprise Vault トレーニング、カリキュラムのパス、認定オプションについて詳しくは、<https://www.veritas.com/services/education-services> を参照してください。

PST 移行の概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [PST ファイル移行の導入](#)
- [PST ファイルの移行に使うツール](#)
- [PST 移行ツールの機能比較](#)
- [Exchange PST 移行ポリシーについて](#)
- [PST のファイルの内容をアーカイブする場合のパフォーマンスの向上](#)
- [ホスト環境での PST ファイルの移行](#)
- [\[個人用ストアの管理\]ノードについて](#)

PST ファイル移行の導入

Enterprise Vault はユーザーのコンピュータの PST ファイルに保持されている情報をアーカイブできます。管理者はメールボックスで PST ファイルの移行を有効にできます。また、管理者はエンドユーザーが PST ファイルを Enterprise Vault に移行するかを選択できるように設定できます。PST 移行を実行するため、Enterprise Vault は PST ファイルを含んでいるコンピュータを見つけ、ファイルを見つけ、所有権を判断し、適切なアーカイブにファイルを移行します。PST ファイルの所有権を判断するため、管理者は PST ファイルマーク付けまたは PST メッセージサンプリングを使用できます。Exchange メールボックスアーカイブまたはインターネットメールアーカイブに PST ファイルを移行することを選択できます。

Enterprise Vault では PST ファイルをアーカイブに移行するために次のツールを利用できます。

- 検索移行型ツール
- クライアント主導の PST 移行

- Policy Manager を使ったスクリプトによる移行
- PST 移行ウィザードを使った移行

PST ファイルの移行に使うツール

Enterprise Vault には、PST ファイルの内容をアーカイブに移行するために次のツールが提供されています。

- Policy Manager を使ったスクリプトによる移行。このツールは、PST ファイルの一括移行を実行するには最適な方法ですが、PST ファイルを集中型の場所に収集する必要があります。
p.25 の「[PST 移行のスクリプトメカニズムの概要](#)」を参照してください。
- PST 移行ウィザードを使った移行。PST ファイルの数が少ない場合は、このツールを使うとファイルを Enterprise Vault にすばやく移行できます。
p.34 の「[PST 移行ウィザードについて](#)」を参照してください。
- 検索移行型ツール。このツールは、ユーザーのコンピュータ上の PST ファイルを検索し、それらのファイルを 1 か所にコピーしてから移行します。PST 検索中に含む、または除外する特定のパスを設定できます。移行する PST ファイルの数が多い場合には、検索移行型ツールを使うと、手動での作業が最小限で済みます。
p.42 の「[検索と移行について](#)」を参照してください。
- クライアント主導の PST 移行。このツールはユーザーのコンピュータにある PST ファイルの自動検出、および中央 PST 隔離フォルダへのコピーを可能にします。Enterprise Vault はその後、隔離フォルダからの PST ファイルを Enterprise Vault のアーカイブに移行します。
また、ユーザーにそれぞれの PST ファイルの移行権限を与えるかどうかを決定できます。
クライアント主導型 PST 移行は、次のような場合に便利です。
 - ユーザーのコンピュータがネットワーク上でたまにしか利用可能でない場合。
 - ユーザーのコンピュータ上の PST ファイルにアクセスする権限がない場合。
 - ユーザーが継続的に PST ファイルにアクセスする必要がある場合。
 p.69 の「[クライアント主導型の PST 移行について](#)」を参照してください。

PST 移行ツールの機能比較

表 2-1 は PST 移行ツールの機能を比較したものです。

表 2-1 PST 移行ツールの機能比較

機能	Policy Manager を使ったスクリプト	PST 移行ウィザード	検索移行型ツール	クライアント主導型移行
PST ファイルの数が少ない場合の使いやすさ	いいえ	はい	いいえ	いいえ
ユーザーのコンピュータ上の PST ファイルの検索	いいえ	いいえ	はい	はい
コンピュータ上で検出された PST ファイルの移行をユーザーに許可	いいえ	いいえ	いいえ	はい
移行する PST ファイルの手動送信をユーザーに許可	いいえ	いいえ	いいえ	はい
ユーザーの PST ファイルの集中型の場所への収集	いいえ	いいえ	はい	はい
多数の PST ファイルの移行に適応	はい	いいえ	はい	はい
指定したパスワードを PST ファイルを開くときに利用可能	いいえ	いいえ	はい	はい
Exchange Server のクォータを調整可能	いいえ	いいえ	はい	はい
アーカイブの特定に PST のマーク付けを使用	はい	はい	はい	いいえ
アーカイブの特定にメールプロファイルのエントリを使用	いいえ	いいえ	はい	はい
アーカイブの特定にホストコンピュータの名前を使用	いいえ	いいえ	はい	いいえ
インターネットメールアーカイブへのファイルの移行	はい	はい	はい	いいえ

Exchange PST 移行ポリシーについて

ユーザーのグループに対する PST ファイルの移行方法をカスタマイズするには、ユーザーのメールボックスが属するプロビジョニンググループに関連付けされている Exchange

PST 移行ポリシーの設定を編集します。このポリシーは、管理コンソールの[ポリシー]>[Exchange]の下に一覧表示されます。

Exchange PST 移行ポリシーのプロパティでは、次の定義を設定できます。

- 移行したアイテムのショートカットを作成するかどうかと、アイテムの作成場所。
- カスタムショートカット。
- メールボックスでのショートカットの追加に対応するために Exchange Server クォータを調整するかどうか。
- デフォルトの保持カテゴリ。
- PST コレクターと PST 移行が PST ファイルの収集や移行時に使用する移行の優先度。
- 移行するアイテムの種類。
- 移行する PST ファイルの提出や移行を許可するファイルの保持カテゴリ変更をユーザーに許可するかどうか。
- Enterprise Vault の Outlook アドインが、ユーザーのコンピュータ上で PST ファイルを検索するときを検索、または無視する特定のパス。
- [削除済みアイテム]フォルダと期限の切れていないカレンダーアイテムを移行するかどうか。
- ユーザーのメールボックスのショートカットに対して作成するフォルダ構造。
- PST 移行ツールがユーザーのメールボックスにフォルダを作成する場合に使う Windows コードページ。
- 移行が正常に終了した後の PST ファイルの処理方法。
- さまざまな PST 移行イベントで Enterprise Vault が送信する通知用電子メール。

アイテムが移行されても、PST ファイル内の元のアイテムは削除されません。移行が正常に終了した後に PST ファイルを削除する場合は、PST 移行ポリシーの[移行後]タブで削除するように選択してください。

PST のファイルの内容をアーカイブする場合のパフォーマンスの向上

Enterprise Vault は、アイテムのアーカイブ時に、コンテンツを HTML に変換してインデックス付けを行います。この処理のデフォルトの変換タイムアウトは 30 分です。Enterprise Vault はアイテムの変換を 3 回試行し、これに 90 分かかるとそのアイテムを放棄して、次のアイテムに移動します。

PST ファイルに非常に大きいまたは複雑なアイテムがある場合、すべてのアイテムを移行するまでに時間がかかる可能性があります。アイテムのコンテンツにインデックス付け

する必要がない場合、変換タイムアウトを数分に設定することでパフォーマンスを向上できます。

変換タイムアウトを変更する方法

- 1 ストレージサービスコンピュータで、文字列レジストリ値 **ConversionTimeout** に必要なタイムアウトを分単位で設定します。このエントリは、次のレジストリキーの下に存在する必要があります。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
  ¥SOFTWARE
    ¥Wow6432Node
      ¥KVS
        ¥Enterprise Vault
```

- 2 ストレージサービスを再起動します。

メモ: 変換タイムアウトを変更すると通常のアーカイブにも影響するため、PST を移行したら必ず元の値に戻してください。

また、Enterprise Vault で、特定の文書の種類について HTML バージョンではなくテキストのバージョンを作成するようにしてパフォーマンスを向上させることもできます。コンテンツの変換操作を行う手順について詳しくは『管理者ガイド』を参照してください。

ホスト環境での PST ファイルの移行

Enterprise Vault がアーカイブするメールアイテムごとに、アイテムの送信者情報と受信者情報を含んでいる XML 文書が作成されます。この文書はアイテムとともにアーカイブされ、Enterprise Vault はインデックス処理中に続けて XML データを使います。

Enterprise Vault は各アイテムがアーカイブされるときに、各アイテムの送信者情報と受信者情報から必要な XML データを構築します。ただし、情報のうちのどれかがアイテムになければ、Enterprise Vault は情報を集めるために、関連した Exchange Server のドメインコントローラへの接続を確立するように試みます。この処理は少なくとも 1 つの Exchange Server がサイトで対象になることを必要とします。

Enterprise Vault が必要な情報を提供するのに利用可能な適した Exchange Server がない環境で PST ファイルを移行すれば、移行パフォーマンスが低下する場合があります。たとえば、この状況は次の場合に起こります。

- Exchange Server がもはや存在しない、Exchange の古い環境で作成された PST ファイルからレガシーデータを移行します。
- Exchange Server がないホスト環境で PST ファイルからデータを移行します。

このような場合、アーカイブの間にアドレスのルックアップをバイパスするようにレジストリ値を設定する必要があります。

Active Directory のアドレスのルックアップをバイパスする方法

- 1 すべての Enterprise Vault のストレージサービスコンピュータで、次のレジストリキーの下に BypassAddressLookups という新しい DWORD レジストリ値を作成します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥SOFTWARE
¥Wow6432Node
¥KVS
¥Enterprise Vault
¥Storage
```

- 2 BypassAddressLookups を 1 に設定します。
- 3 ストレージサービスを再起動します。

この設定は、PST 移行によってアーカイブされる各メールアイテムで見つかる送信者情報と受信者情報のみを PST 移行で使えるようにします。Enterprise Vault は、Active Directory 接続を確立してアドレスを解決しようとはしません。

[個人用ストアの管理]ノードについて

ネットワークで検索されたすべてのコンピュータ、メールボックス、PST ファイルは、[個人用ストアの管理]ノードの下にあるさまざまなノードに一覧表示されます。

[個人用ストアの管理]をクリックすると開かれるページには、Enterprise Vault が管理するすべてのコンピュータ、メールボックス、PST ファイルの概略が表示されます。

[個人用ストアの管理]ノードには、次のノードがあります。

- [ファイル]。このノードには、Enterprise Vault に移行中または移行された PST ファイルの情報が含まれています。さまざまなオプションを使って、一覧表示されているファイルの移行状態、優先度、メールボックス、アーカイブ、保持カテゴリを変更できます。
- [コンピュータ]。このノードには、ネットワーク上で検出されたすべてのコンピュータの情報が含まれています。一覧表示されているコンピュータでの PST ファイルの検索を有効または無効にできます。
- [メールボックス]。このノードには、アーカイブが有効にされたメールボックスの情報が含まれています。一覧表示されているメールボックスは、クライアント主導の移行用に有効または無効にできます。

表示された情報はソートまたはフィルタ処理することができるほか、将来参照するためにアイテムの集合を保存できます。また、列を追加、削除、移動して、表示をさらにカスタマイズすることもできます。表示に対して加えたカスタマイズ内容は保存できます。

表示されたアイテムは CSV ファイルまたは HTML ファイルにエクスポートできます。詳細情報をエクスポートするとき、Enterprise Vault は、何をカスタマイズしたかに関係なく、すべての列の情報をエクスポートします。

メモ: このノードに含まれるのは、[配置と移行]を使って検索され、Enterprise Vault に移行された PST ファイル、またはクライアント主導の移行によって取得された PST ファイルのみです。このノードには、ウィザードまたはスクリプトを使った移行によって Enterprise Vault に移行されたファイルは含まれません。

各ノードについて詳しくは、管理コンソールのヘルプを参照してください。

[個人用ストアの管理]のロードに時間がかかる場合、Enterprise Vault サーバーからインターネットへの接続がない可能性があります。

可能な回避方法について詳しくは、『インストール/設定』の Enterprise Vault サーバーがインターネットに接続されていない場合のパフォーマンスの問題に関するセクションを参照してください。

フィルタの作成

親ノード、[ファイル]、[コンピュータ]および[メールボックス]のそれぞれには[フィルタ]ノードがあります。[フィルタ]ノードには、事前定義済みのフィルタと今後の参照用に作成、保存したフィルタ基準が含まれています。フィルタノードをクリックすると、フィルタが実行され、表示が動的に更新されます。

次の点に注意してください。

- 各[フィルタ]ノード内で、最大 100 のフィルタを作成できます。この数は、次のレジストリキーの下に **MaxFilterCount** と呼ばれる新しい DWORD レジストリ値を作成することによって設定できます。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
  ¥SOFTWARE
    ¥Wow6432Node
      ¥KVS
        ¥Enterprise Vault
          ¥Admin
```

メモ: フィルタ数は 100 に制限することを推奨します。この数を超えると、Enterprise Vault のパフォーマンスに影響する可能性があります。

- 各親ノードの[フィルタ]ノードには、使用可能な事前定義済みのフィルタが含まれています。

- 事前定義済みのフィルタも含め、作成したフィルタは名前を変更したり、削除できます。
- 複数のキーワードに基づいてリストをフィルタ処理するには、キーワードをカンマで区切ります。

フィルタを作成、保存する方法

- 1 一覧を絞り込むために使うフィルタ基準を選択します。[+]ボタンをクリックして複数の基準を選択できます。フィルタ基準を削除するには[-]ボタンを使います。
たとえば、リストをフィルタ処理して移行に失敗したファイルのみを表示するには、次を実行します。
 - 最初のドロップダウンメニューで、[移行の状態]を選択します。
 - 番目のドロップダウンメニューで、[次のどれか 1 つ以上を含む]を選択します。
 - 番目のドロップダウンメニューで、[失敗した移行]を選択します。
- 2 [適用]をクリックします。適用したフィルタ基準に応じて表示内容が変更され、[適用]ボタンが[保存]に変わります。
- 3 [保存]をクリックします。
- 4 [保存]ダイアログで次のいずれかを実行します。
 - [フィルタの保存]をクリックし、フィルタの名前と説明を入力します。
 - [結果の保存]をクリックし、保存された結果のフォルダの名前と説明を入力します。代わりに、表示されているアイテムを既存の保存された結果のフォルダに追加することもできます。
- 5 [保存]をクリックします。保存されたフィルタは別個のノードとして[フィルタ]ノード内に一覧表示されます。保存したフィルタをクリックすると、フィルタが実行され表示が動的に更新されます。保存された結果は別個のノードとして[保存された結果]ノード内に一覧表示され、統計データが表示されます。

PST ファイルの所有権

この章では以下の項目について説明しています。

- [PST ファイルの所有権について](#)
- [PST ファイル所有者を判断するための PST ファイルのマーク付け](#)
- [PST ファイルの所有権を判断する PST メッセージのサンプリング](#)

PST ファイルの所有権について

PST ファイルの所有権の確立は、適切なユーザーのアーカイブにその内容を格納するために重要です。**Enterprise Vault** は複数の方法を使用して所有権を判断します。

PST ファイルがユーザーの **Outlook** プロファイルにあれば、そのユーザーは PST ファイルの所有者とみなされます。ネットワークにある他のすべての PST ファイルについては、**Enterprise Vault** は次の方法で所有者を判断します。

- PST ファイルのマーク付け。ユーザーが **Outlook** を起動するときに、**Enterprise Vault Outlook** アドインがメールプロファイルに一覧表示される各 PST ファイルにマーカを書き込めるように、**Enterprise Vault Outlook** アドインを設定できます。**Enterprise Vault** サイト、関連付けられたアーカイブ、関連付けられた保持カテゴリがマーカで示されます。PST 移行でこれらのマークが付いた PST ファイルのいずれかが見つかった場合は、この情報を読み込んだり、デフォルトのアーカイブを所有するメールボックスを判断したりすることができます。
p.19 の「[PST ファイル所有者を判断するための PST ファイルのマーク付け](#)」を参照してください。
- PST メッセージのサンプリング。メッセージのサンプリングを使用して所有者を識別し、所有者候補が見つかった場合はそのユーザーのメールボックスを使用します。
p.20 の「[PST ファイルの所有権を判断する PST メッセージのサンプリング](#)」を参照してください。

PST ファイルの所有者を識別する最初の方法としてメッセージのサンプリングを使用することも、PST ファイルのマーキングに失敗した場合にのみ **Enterprise Vault** がこの方

法を使用することも許可できます。[個人用ストアの管理]プロパティを編集してこの方法を設定できます。

Enterprise Vault が PST ファイル、関連付けられたメールボックス、その対応アーカイブの所有権を判断できない場合は、PST ファイルの状態が[未準備]として表示されます。PST ファイルのプロパティを編集し、必要な情報を入力して状態を[コピー準備完了]に変更する必要があります。所有者が識別されない PST ファイルを格納するデフォルトのアーカイブも選択できます。

PST ファイル所有者を判断するための PST ファイルのマーク付け

設定に応じて、ユーザーが Outlook を起動するときに、メールプロファイルに一覧表示される各 PST ファイルに Enterprise Vault Outlook アドインによってマーカが付けられます。Enterprise Vault サイト、関連付けられたアーカイブ、関連付けられた保持カテゴリがマーカで示されます。すべての PST 移行ツールは、このマーカを使って所有するメールボックスを特定し、ファイルの内容をそのメールボックスのデフォルトのアーカイブに移行できます。Outlook の詳細設定の一覧にある[PST ファイルにマーク付け]設定を使って、Exchange デスクトップポリシーの PST ファイルのマーク付けを有効または無効にすることができます。

マーク付けが有効になっていると、Outlook の起動時に Outlook アドインは次の処理を行います。

- ユーザーのメールプロファイルに指定されているすべての PST を開こうとします。ユーザーが次に Outlook を起動するとき、Outlook アドインはパスワードで保護された PST に対するパスワードを要求し、アクセス不能な PST を示すエラーメッセージを表示します。

メモ: パスワードの誤りやパスワードが見つからないために移行エラーが発生するのを避けるには、[個人用ストアの管理]プロパティの[全般]タブを編集して、Enterprise Vault がパスワードを上書きしてファイルを移行できるようにします。この機能はクライアント主導型移行では利用できません。

- 別のメールプロファイルを使用して PST ファイルマーカにアクセスした場合以外は、PST ファイルマーカを更新しません。Enterprise Vault では、PST ファイルの所有者がそのファイルへのアクセスに使われた最後のプロファイルであると見なします。
- その後メールプロファイルに追加された PST ファイルがあると、そのすべてにマーク付けを行います。このマーク付けは、Outlook が起動されたときに行われます。そのため、PST ファイルを開き、再度閉じただけでは、その PST にはマーク付けされません。

PST ファイルの所有権を判断する PST メッセージのサンプリング

PST メッセージのサンプリングは、ファイルのメッセージを設定可能な割合でサンプリングして PST ファイルそれぞれの所有者を判断します。メッセージのサンプリングの設定方法に基づき、所有者が特定されたファイルの移行の状態が[コピー準備完了]に設定されます。

p.23 の「[メッセージサンプリングの結果](#)」を参照してください。

[個人用ストアの管理]プロパティの[PST 所有権の識別]タブを使用して次を設定できます。

- メッセージのサンプリングを初期メソッドとして使用して PST ファイルの所有者を識別します。
- PST ファイルのマーク付けが失敗した場合にのみ Enterprise Vault がこのメソッドを使用することを許可します。
- 次の基準を設定します。
 - サンプルサイズの割合: 所有者候補を見つけるために Enterprise Vault でサンプリングしたい PST ファイル内部のメッセージの割合。
 - 所有権の割合: 所有権を判断するサンプルサイズ内で関連付けられたメッセージの割合。
 - 移行の状態の変更割合: PST ファイルの状態を[コピー準備完了]に変更するかどうかを決定する、割り当て済み所有者に関連付けられたメッセージの割合。
たとえば、100 個のメッセージを含む PST ファイルの場合にサンプルサイズを 80% に設定すると、Enterprise Vault は 80 個のランダムメッセージをスキャンして所有者候補を見つけます。所有権の割合を 70% に設定すると、Enterprise Vault は PST ファイルに関連付けられたメッセージを 56 個以上含むユーザーに所有権を割り当てます。移行の状態の変更割合を 80% に設定すると、Enterprise Vault は識別された所有者が関連付けられたメッセージを 64 個含むかどうかを調べて PST の移行状態を[コピー準備完了]に変更します。
- 識別された所有者を含まない PST ファイルを格納するデフォルトのアーカイブを指定します。

管理コンソールの[個人用ストアの管理]、[ファイル]ノードの検索移行型ツールおよび[単一の PST ファイルを追加]および[複数の PST ファイルを追加]オプションでは、これらの設定を使用して PST ファイルの所有者を識別します。

所有者識別ワークフローは、メッセージのサンプリングの設定によって変わります。

[表 3-1](#) ではメッセージのサンプリングに対する所有者識別ワークフローを詳しく説明します。

表 3-1 所有者識別ワークフロー

メッセージサンプリング	検索移行型ツール	単一または複数の PST ファイルの追加
無効	Enterprise Vault では次のメソッドを一覧表示された順序で使用して所有者を識別します。 <ul style="list-style-type: none"> PST ファイルのマーク付け PST ファイルの権限 	Enterprise Vault では次のメソッドを一覧表示された順序で使用して所有者を識別します。 <ul style="list-style-type: none"> PST ファイルのマーク付け PST ファイルの権限 フォルダのディレクトリ権限
PST ファイルのマーク付けが失敗した場合またはマーク付けされていない場合のみ	Enterprise Vault では次のメソッドを一覧表示された順序で使用して所有者を識別します。 <ul style="list-style-type: none"> PST ファイルのマーク付け PST ファイルの権限 メッセージサンプリング 	Enterprise Vault では次のメソッドを一覧表示された順序で使用して所有者を識別します。 <ul style="list-style-type: none"> PST ファイルのマーク付け PST ファイルの権限 フォルダのディレクトリ権限 メッセージサンプリング
メッセージのサンプリングを最初に使う	Enterprise Vault では次のメソッドを一覧表示された順序で使用して所有者を識別します。 <ul style="list-style-type: none"> メッセージサンプリング PST ファイルのマーク付け PST ファイルの権限 	Enterprise Vault では次のメソッドを一覧表示された順序で使用して所有者を識別します。 <ul style="list-style-type: none"> メッセージサンプリング PST ファイルのマーク付け PST ファイルの権限 フォルダのディレクトリ権限

パフォーマンスを最適化するには、メッセージサンプリングをオフにして PST 検索タスクを実行し PST ファイルを検索してください。PST 検索タスクが完了したら、メッセージサンプリングをオンにしてタスクを再実行し可能性のある所有者を特定します。

注意: メッセージサンプリングのパフォーマンスは、PST ファイルに含まれるアイテム数に依存します。

PST ファイルの所有権を判断するメッセージサンプリングの設定

[個人用ストアの管理]プロパティページを使用してメッセージサンプリングを設定し、PST ファイルの所有者を判断できます。メッセージサンプリング設定をどのように設定するかに応じて、Enterprise Vault は PST ファイルの状態を[コピー準備完了]に変更するか、または PST ファイルをデフォルトのアーカイブに格納します。

パフォーマンスを最適化するには、メッセージサンプリングをオフにして PST 検索タスクを実行し PST ファイルを検索してください。PST 検索タスクが完了したら、メッセージサンプリングをオンにしてタスクを再実行し可能性のある所有者を特定します。

注意: メッセージサンプリングのパフォーマンスは、PST ファイルに含まれるアイテム数に依存します。

メッセージのサンプリングを使って PST ファイルの所有権を判断する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[個人用ストアの管理]ノードが表示されるまで階層を展開します。
- 2 [個人用ストアの管理]を右クリックします。次に[プロパティ]をクリックします。[個人用ストアの管理]プロパティが表示されます。
- 3 [PST 所有権の識別]タブをクリックします。
- 4 [メッセージサンプリングを使う]をクリックして次のいずれかの操作をします。
 - [PST ファイルのマーク付けが失敗したかマーク付けがされていない場合のみ]を選択する。この場合には **Enterprise Vault** はマーク付けされていない PST ファイルを見つける場合にのみメッセージのサンプリングを使います。
 - [メッセージのサンプリングを最初に使う]を選択する。この場合には **Enterprise Vault** はメッセージのサンプリングを使って所有者候補を見つけます。
- 5 [PST ファイルのサンプルサイズ]では、所有者候補を見つけるために **Enterprise Vault** でスキャンしたい PST ファイルのメッセージの割合を指定します。
- 6 [この割合で、関連付けられたメッセージを含むユーザーに所有権を割り当てる]を選択し、所有権を割り当てるサンプルサイズ内で特定のユーザーに含まれる関連付けられたメッセージの割合を指定します。1% から 100% までの範囲で値を指定できます。51% から 100% までの値を指定することを推奨します。
- 7 [所有者が識別されていない場合]セクションで、次のいずれかの操作をします。
 - [未割り当てのままにする]を選択する。この場合には所有者が見つからない PST ファイルは[未準備]状態のままです。
 - [アーカイブに割り当て]を選択して、所有者が識別されていない PST ファイルを格納するデフォルトのアーカイブを参照して選択します。このようなファイルの場合には状態は[移行しない]に変わります。
- 8 [詳細]タブをクリックします。
- 9 [移行の状態の変更割合]、[修正]の順にクリックします。80 から 100 までの間の値を入力します。

- 10 [メッセージの種類の除外リスト]、[修正]の順にクリックします。所有者の候補を見つけるために Enterprise Vault でサンプルサイズをスキャンするときに無視したいメッセージクラスを入力します。
- 11 [適用]、[OK]の順にクリックして設定を保存します。

メッセージサンプリングの結果

メッセージのサンプリングをどのように設定したかに応じて、次の結果のいずれかを取得できます。

表 3-2はメッセージサンプリングに関する Enterprise Vault の動作を詳しく説明しています。

表 3-2 メッセージサンプリングの結果

メッセージサンプリング	発生する処理	PST 移行ステータス
メッセージのサンプリングにより正常に所有者を識別。	Enterprise Vault が電子メールアドレスまたは表示名を利用可能な Exchange メールボックスのユーザーと照合してそのユーザーのアーカイブを PST ファイルに割り当てると、アイテムをそのアーカイブに移行できます。	PST ファイルの状態は[移行しない]に変わります。 関連付けられたメッセージの割合が移行状態の変更に設定した基準と一致する場合は、PST ファイルの状態は[コピー準備完了]に変わります。
メッセージのサンプリングで所有者候補が識別されたが、関連付けられたメッセージの数が設定済みの所有権の基準を満たさない。	-	PST ファイルは[未準備]の状態のままになります。デフォルトのアーカイブを指定して、所有者が特定されていない PST ファイルを格納すると、PST ファイルはデフォルトのアーカイブに割り当てられ状態が[移行しない]に変わります。 PST ファイルが[未準備]状態の場合は手動で正しいアーカイブを割り当て、状態を変更できます。

メッセージサンプリング	発生する処理	PST 移行ステータス
<p>メッセージのサンプリングが複数の所有者候補を識別する。たとえば PST ファイルに、関連付けられたメッセージをそれぞれ 50% 含む所有者が 2 人存在したり、関連付けられたメッセージをそれぞれ 33.3% 含む所有者が 3 人存在したりします。</p>	<p>Enterprise Vault はこの情報を PST ファイルのプロパティページの「詳細情報」セクションに表示します。</p>	<p>PST ファイルは[未準備]の状態のままになります。デフォルトのアーカイブを指定して、所有者が特定されていない PST ファイルを格納すると、PST ファイルはデフォルトのアーカイブに割り当てられ状態が[移行しない]に変わります。</p> <p>PST ファイルが[未準備]状態の場合は手動で正しいアーカイブを割り当て、状態を変更できます。</p>
<p>メッセージのサンプリングが所有者を識別したが、関連付けられたアーカイブが見つからない。</p> <p>これは、PST ファイルがネットワーク外にあるか、またはユーザーのメールボックスのアーカイブが有効ではない場合に起こることがあります。</p>	<p>Enterprise Vault はこの情報を PST ファイルのプロパティページの「詳細情報」セクションに表示します。</p>	<p>PST ファイルは[未準備]の状態のままになります。デフォルトのアーカイブを指定して、所有者が特定されていない PST ファイルを格納すると、PST ファイルはデフォルトのアーカイブに割り当てられ状態が[移行しない]に変わります。</p> <p>PST ファイルが[未準備]状態の場合は手動で正しいアーカイブを割り当て、状態を変更できます。</p>

PST 移行: スクリプト

この章では以下の項目について説明しています。

- [PST 移行のスクリプトメカニズムの概要](#)
- [Policy Manager を使った PST 移行処理の実行](#)
- [PST スクリプトによる移行の準備](#)
- [PST 移行からの出力](#)
- [PST スクリプトによる移行のサンプル初期化ファイル](#)

PST 移行のスクリプトメカニズムの概要

Policy Manager を使用して、PST ファイルの内容をスクリプト化して Enterprise Vault に移行できます。Policy Manager について詳しくは『ユーティリティガイド』を参照してください。

スクリプトメカニズムを使用すると、各 PST ファイルの処理方法を設定できます。

たとえば、PST ファイルごとに次のように処理できます。

- アーカイブ先を指定します。
- 移行したアイテムのショートカットを作成するかどうかを指定する。作成する場合は PST ファイルのショートカットのままにするか、またはユーザーのメールボックスにある特定のフォルダのショートカットにするかを指定します。
- 移行したアイテムに使う保持カテゴリを指定します。
- PST ファイルのアイテムを移行した後の PST ファイル自体の処理を制御します。

Policy Manager の初期設定ファイルを作成して、このファイルに、Enterprise Vault に内容を移行する各ファイルの一覧を作成します。すべての PST ファイルに適用するデフォルト値を設定することも、個々の PST ファイルのデフォルト設定を上書きすることもできます。

Enterprise Vault クライアントで、各 PST ファイル (PST のマークが付いているファイル) に所有者のデフォルトアーカイブの詳細を保存できます。Policy Manager はこの情報を使用して、各 PST ファイルに使うメールボックスと正しいアーカイブを決定できます。このメカニズムを使用しない場合、または一部の PST ファイルの値を上書きしたくない場合は、個々の PST ファイルの値を上書きできます。

Policy Manager を使って PST を移行する場合は、レポートモードを使用して初期設定ファイルの一覧ですべての PST ファイルを確認できます。このモードでは、問題を特定する行を含めて初期設定ファイルの新しい複製を生成します。処理できないように PST ファイルのエントリにマーク付けすると、マーク付けされたファイルが PST 移行で無視されます。

次のいずれかの操作を実行できます。

- 問題を解決して、再度レポートモードで Policy Manager を実行してさらに問題があるかどうかを確認します。ファイルにエラーがない場合は、処理モードで Policy Manager を実行してすべてのファイル进行处理できます。必要に応じて何度でもレポートモードで実行できます。Policy Manager は、実行するたびに新しい初期設定ファイルを作成するので、正常に実行またはこのファイルを使用して問題を解決できます。
- 処理モードですぐに実行します。問題を引き起こす可能性があるファイルはマーク付けされているので、Policy Manager は無視します。後で、問題があるこれらのファイルに対する処理を決定できます。

次の点に注意してください。

- Policy Manager は、Exchange PST 移行ポリシーのメッセージクラスとショートカットコンテンツ設定のみを使用します。ポリシーの他の設定は無視されます。
- PST ファイルに関連付けられているメールボックスとアーカイブを識別できるように PST のマークを付けると、Policy Manager で PST ファイルに書き込まれた情報を使用できます。
- PST 移行を実行しているときに Policy Manager を使用して同時に他のタスクを実行することは推奨しません。
- いくつかの PST ファイルのみを移行する場合は、代わりにウィザードを使用する PST 移行ツールを使うと簡単に移行できます。
p.34 の「[PST 移行ウィザードについて](#)」を参照してください。

Policy Manager を使った PST 移行処理の実行

Policy Manager を使ったスクリプトによる移行の概略は、次のとおりです。

Policy Manager を使って移行処理を実行する方法

- 1 所有権を特定するために PST ファイル内でマーカーを使うかどうかを決定します。デフォルトで、PST ファイルにマークが付けられます。Outlook の詳細設定に一覧表示されている[PST ファイルにマーク付け]設定を使って、Exchange デスクトップポリシーの PST ファイルのマーク付けを無効にすることができます。

p.19 の「[PST ファイル所有者を判断するための PST ファイルのマーク付け](#)」を参照してください。

- 2 Enterprise Vault に移行する PST ファイルを指定するには、Policy Manager 初期化ファイルを作成します。このファイルの中で、Policy Manager をレポートモードで実行するよう指定します。初期設定ファイルは、必ず Unicode 形式で保存するようにしてください。

- 3 初期設定ファイルを使って、Policy Manager をレポートモードで実行します。

Policy Manager は、次の処理を行います。

- 一覧表示されているすべての PST ファイルがアクセス可能なことをチェックします。
- アクセスできなかったファイルや、パスワードで保護されたファイルなど、一覧表示されている PST ファイルで発生した問題を示す新しい初期設定ファイルを作成します。
新しい初期設定ファイルには、元のファイルと同じ名前に重複のないように番号が追加されます。たとえば、元のスクリプトが PSTMigration.ini であれば、新しいスクリプトは PSTMigration_1.ini のようになります。
- 元の初期設定ファイルと同じ名前で、ファイルの種類が .log のログファイルを作成します。たとえば、元のスクリプトが PSTMigration.ini であれば、ログは PSTMigration.log のようになります。

- 4 新しい初期設定ファイルに一覧表示されている問題を解決することも、その処理後に回すことも、どちらも可能です。
- 5 新しい初期設定ファイルを使って Policy Manager を実行します。Policy Manager は、ファイルの内容を移行して、初期設定ファイルと同じ名前で作成したファイルの種類が .log であるログファイルに書き込みます。

移行処理に失敗した PST ファイルがある場合、Policy Manager は、それらの失敗したファイルのみを処理するために実行できる新しいスクリプトを自動的に作成します。

必要に応じて、発生した問題を解決した後、新しいスクリプトを実行して、前に処理されなかった PST ファイルの内容のみを移行します。

PST スクリプトによる移行の準備

- Policy Manager は、限られた数のみの Exchange PST 移行ポリシーの設定を使います。Enterprise Vault は、Enterprise Vault インストールの次の設定に従って PST ファイルからアイテムをアーカイブします。
- Enterprise Vault は、Exchange PST 移行ポリシーのプロパティの[メッセージクラス]ページでアーカイブ対象として定義している種類のアイテムのみをアーカイブします。
- 移行は、ストレージサービス用に設定したレジストリ設定に従います。
- カスタマイズされたショートカットを Exchange PST 移行ポリシーの[ショートカットの内容]タブで設定した場合は、PST 移行でこれらの設定が使われます。それ以外では、Exchange メールボックスポリシーで設定しているショートカットの内容の設定が使われます。
- PST 移行時に、アイテムは特定の保持カテゴリに割り当てられます。

メモ: Enterprise Vault には保持フォルダや分類機能など、指定した保持カテゴリを上書きできる機能があります。保持について詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。

- 移行時に PST ファイルが使われていることがないようにしてください。そのため、ユーザーが PST ファイルを開いていないことを確認してください。PST ファイルを移動したほうがよい場合もあります。
- 最適な手順はすべての PST ファイルを同じ場所に収集して移行することです。これにより、初期化ファイルの生成、権限の割り当て、ファイルの管理が容易になります。ただし、同じ名前の PST ファイルが存在する場合は一部のファイル名が競合することがあります。マーク付けされない PST ファイルは PST に識別情報が存在しない場合があるので所有者を確認する必要があります。
- ボルトサービスアカウントには PST ファイルに対するフルコントロールアクセス権が必要です。
- 移行先のボルトストア用のストレージサービスが実行されている必要があります。
- パスワードで保護された PST ファイルは処理できません。その内容を移行する前に、このような保護を削除する必要があります。
代わりに、PST 移行時に Enterprise Vault が PST パスワードを上書きできるようにすることも可能です。パスワードを上書きするには、[個人用ストアの管理]プロパティの[全般]タブで[パスワード保護した PST ファイルのパスワードを上書き]を有効にします。
- 移行の終了時に自動 PST 圧縮機能を使う場合は、圧縮用にディスク容量が余分必要になります。PST ファイルの最大サイズにそのサイズの約 5% を加えた容量が

必要になります。移行後に PST ファイルを削除する予定がある場合は、圧縮を無視することもできます。

- **Policy Manager** による移行では、メールボックスに送信禁止または送受信禁止のどちらかのメールボックスの制限が設定されていると、メールボックスの空き容量の限度がチェックされます。この両方の限度を設定した場合は、**Policy Manager** は空き容量の下限を超えるアイテムをメールボックスに移動しません。どちらか 1 つの限度のみが設定されている場合、**Policy Manager** はその限度に従います。
空き容量の限度のためにアイテムがメールボックスに移動されなかったとしても、アイテムは適切なアーカイブに引き続きアーカイブされることに注意してください。この場合は、アイテムをメールボックスに移動するために、メールボックスクォータを増やしてから PST ファイルを再度移行できます。

PST 移行からの出力

[PSTdefaults] セクションが含まれた初期設定ファイルを使って **Policy Manager** を実行すると、検出された問題の詳細を含む新しい初期設定ファイルが **Policy Manager** によって自動的に作成されます。

この新しい初期設定ファイルには次の特徴があります。

- ファイルの先頭に、実行の結果を要約した [PSTcheckpoint] セクションが存在します。
- 処理モードを使った場合は、次のようになります。
 - 正常に処理されたファイルのすべての [PST] セクションがコメントアウトされます。
 - 各 [PST] セクションには、そのファイルに対して、成功または発生したエラーの種類を示す **JobStatus** エントリが存在します。

[PSTcheckpoint] セクションのスクリプトによる PST 移行

[PSTcheckpoint] セクションの内容は、初期設定ファイルをレポートモードまたは処理モードのどちらで実行したかによって異なります。

レポートモードの [PSTcheckpoint] セクション

次の [PSTcheckpoint] セクションは、初期設定ファイルをレポートモードで実行した結果です。**Generation** カウントの 1 は、これがファイルの最初の実行の結果であることを示しています。

```
[PSTCHECKPOINT]
GENERATION = 1
CREATED = 02Oct2008 10:58:02 AM
SOURCE = E:\EV\pstmigration\pstlist.ini
```

```
PSTPROCESSEDCOUNT = 118  
PSTNOTREADYCOUNT = 3  
PSTWARNINGCOUNT = 2
```

次のエントリに注目してください。

- PSTPROCESSEDCOUNT = 118 は、このファイルに 118 の PST ファイルへの参照が含まれていることを示しています。
- PSTNOTREADYCOUNT = 3 は、問題が発生したファイルが 3 つあることを示しています。この詳細情報は、個々の[PST]セクションの Report_Error エントリに記述されています。これらの各[PST]セクションには、DONOTPROCESS = TRUE が Policy Manager によって自動的に追加されます。
- PSTWARNINGCOUNT = 2 は、警告が発生したファイルが 2 つあることを示しています。この場合は、どちらもマーク付けされた PST ファイルであり、そのマーク付けが意図的に上書きされています。この詳細情報は、個々の[PST]セクションの Report_Error エントリに記述されています。

問題のある各 PST ファイルには Policy Manager によって DONOTPROCESS = TRUE エントリが追加されているため、この新しい初期設定ファイルを処理モードでただちに実行して、問題のある PST の処理を後に回すことができます。あるいは、問題を解決し、DONOTPROCESS = TRUE エントリを削除してから、ファイルを再度レポートモードまたは処理モードのどちらかで実行することもできます。

処理モードの[PSTcheckpoint]セクション

次の[PSTcheckpoint]セクションは、初期設定ファイルを処理モードで実行した結果です。2 という Generation カウントは、これがファイルの 2 番目の実行の結果であることを示しています。

```
[PSTCHECKPOINT]  
GENERATION = 2  
CREATED = 02Oct2008 10:59:36 AM  
SOURCE = E:\EV\pstmigration\pstlist.ini  
PSTPROCESSEDCOUNT = 115  
PSTFAILEDCOUNT = 0  
PSTUNPROCESSEDCOUNT = 3  
PSTINCOMPLETECOUNT = 0  
PSTPARTIALCOUNT = 0
```

次のエントリに注目してください。

- PSTPROCESSEDCOUNT = 115 は、115 の PST ファイルが処理されたことを示しています。この初期設定ファイルは、上のレポートモードの説明で示したものと同じです。問題のある 3 つのファイルは DONOTPROCESS = TRUE エントリで残されているため、Policy Manager によって無視されました。

- **PSTFAILEDCount = 0** は、処理を試行できなかったファイルがなかったことを示しています。
- **PSTUnprocessedCount = 3** は、3 つのファイルが無視されたことを示しています。これらは **DONOTPROCESS = TRUE** エントリがある 3 つのファイルです。
- **PSTIncompleteCount = 0** は、一部しか処理されなかった PST ファイルがなかったことを示しています。Policy Manager の処理は中断されませんでした。
- **PSTPartialCount = 0** は、処理できなかった個別のアイテムを含む PST ファイルがなかったことを示しています。このようなアイテムがある場合、それらのアイテムは Policy Manager により PST ファイル内の **Migration Failed Items** フォルダに格納されています。

スクリプトによる PST 移行の Enterprise Vault イベントログ

処理モードで実行した場合は、Enterprise Vault イベントログにも、処理された PST ファイルごとに 1 つのエントリが記録されます。このエントリは、Enterprise Vault イベントログでは移行サーバーのソースとあわせて表示されます。たとえば、次のログエントリは、560 アイテムが含まれており、メールボックス内に 560 のショートカットが格納された PST ファイルに対するものです。

```
PST Migration Report
Migration status: Completed
PST file: E:\Vault Test files\TestPSTs\uml.pst
Vault Name: Chris Waterlander
Vault Id:
14F921A913AB6D511AC9F0008C711C6F01110000server2.acme.com
RetentionCategory: Business
Exchange Server\Mailbox:
EV\o=ACME/ou=DEVELOPER/cn=Recipients/cn=ChrisW
Number of folders processed: 43
Number of items archived to vault: 560
Total size of items archived: 137876 KB
Number of items unable to be archived: 0
Number of items moved to mailbox: 560
Elapsed Migration Time: 0:0:6 (hours:minutes:seconds)
```

移行される PST ファイルごとに、概略を示すログエントリがあります。エントリには、アーカイブされたアイテムの数と、メールボックスに移動されたアイテムの数が一覧表示されます。

一部のアイテムはアーカイブ処理やメールボックスへの移動ができない場合があります。この現象は、(管理コンソールの **Exchange PST 移行ポリシー** の [メッセージクラス] タブで) アーカイブしないように設定した種類のメッセージがこれらのアイテムにある場合に発生します。

PST スクリプトによる移行のサンプル初期化ファイル

初期化ファイルは Unicode ファイルとして保存する必要があります。

表 4-1 に、5 つの PST ファイルの移行を設定するサンプル初期化ファイルを示します。

表 4-1 サンプル初期化ファイル

初期化ファイルのセクション	メモ
[Directory] directorycomputername = server2 sitename = server2	<ul style="list-style-type: none"> ■ ディレクトリセクションは必須で、ファイルの先頭に記述する必要があります。 ■ このセクションには、Enterprise Vault ディレクトリコンピュータの名前およびサイト名が含まれます。
[PSTdefaults] ServerComputerName = server2 PSTLanguage = Western European MailboxFolder = EVPM PST Migrations MigrationMode = Report ShortcutMode = NoShortcuts IncludeDeletedItems = false SetPstHidden = false SetPstReadOnly = false CompactPst = true DeletePst = false CancelMbxAutoArchive = false	<ul style="list-style-type: none"> ■ これらのデフォルトオプションは、次の [PST] セクションに記載されているすべての PST 移行に適用されます (セクション内で上書きされる場合を除きます)。 ■ PST 言語は必須です。 ■ [PSTDefaults] セクションは 1 つだけで、個々の [PST] セクションの前に記述する必要があります。 ■ MigrationMode=Report は、この初期化ファイルをレポートモードで実行することを指定します。 ■ ShortcutMode=NoShortcuts は、デフォルトで移行されたアイテムへのショートカットが作成されないことを意味します。移行できないアイテムは PST ファイルに残り、メールボックスに移動されません。この動作は、個々の PST ファイルに対して上書きできます。
[PST] Filename = E:¥Migration¥Missing.pst	<ul style="list-style-type: none"> ■ [PST] セクションは [PSTDefaults] セクションの後に記述する必要があります。 ■ 各セクションでは、少なくとも PST ファイル名を指定する必要があります。 ■ オプションを指定しない場合、Policy Manager は [PstDefaults] セクションの値を使います。 ■ このマークされたファイルがないので、Policy Manager の実行時にエラーが発生します。

初期化ファイルのセクション	メモ
<p>[PST]</p> <p>Filename =</p> <p>¥¥server3¥temp¥marked1.pst</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ このファイルはリモートコンピュータにあります。 ■ この PST ファイルは Enterprise Vault クライアントによってマークされています。これにより、Policy Manager はターゲットアーカイブ、Exchange Server メールボックス、および保持カテゴリを自動的に特定できます。
<p>[PST]</p> <p>Filename = E:¥Migration¥Missing.pst</p> <p>MailboxDN = /o=ACME/ ou=DEVELOPER/cn=Recipients/ cn=JackH</p> <p>ShortcutMode = MailboxShortcuts</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ この PST ファイルは Enterprise Vault クライアントによってマークされています。これにより、Policy Manager はターゲットアーカイブ、Exchange Server メールボックス、および保持カテゴリを自動的に特定できます。 ■ MailboxDN 設定は PST のマークを上書きします。これにより、初期化ファイルが処理されるときに警告が表示されます。ファイルは、指定された有効なメールボックスおよびそのメールボックスのデフォルトの保持カテゴリとアーカイブを使って正しく処理されます。 ■ Policy Manager はアーカイブ済みアイテムのショートカットを作成し、移行の終了時に PST に残っているアイテムとともにメールボックスに配置します。
<p>[PST]</p> <p>Filename = E:¥Migration¥Missing.pst</p> <p>ArchiveName = Jack Henry2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ この PST ファイルは Enterprise Vault クライアントによってマークされています。 ■ ArchiveName 設定は、クライアントが作成した所有者のエントリを上書きしています。これにより、初期化ファイルが処理されるときに警告が表示されます。PST ファイルは、指定されたアーカイブおよび所有メールボックスからのデフォルトの保持カテゴリを使って正しく処理されます。
<p>[PST]</p> <p>ArchiveName = SharedArchive1</p> <p>Filename = E:¥Migration¥Missing.pst</p> <p>RetentionCategory = Business</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ このファイルは Enterprise Vault クライアントによってマークされていません。 ■ ArchiveName、PST filename、および RetentionCategory を指定する必要があります。

PST 移行: ウィザードの使用

この章では以下の項目について説明しています。

- [PST 移行ウィザードについて](#)
- [ウィザードによる PST 移行処理の概略](#)
- [ウィザードによる PST 移行処理の準備](#)
- [ウィザードによる PST 移行処理に関するヒント](#)
- [ウィザードを使った PST の移行処理によるユーザーへの影響](#)
- [ウィザードによる PST 移行処理の開始](#)

PST 移行ウィザードについて

PST 移行は、PST ファイルの内容を Enterprise Vault に格納するウィザードです。

このウィザードの主な機能は次のとおりです。

- 複数の PST ファイルを同時に移行できます。
- PST を手動でアーカイブに関連付けることも、PST ファイルに設定されている権限に基づいて PST 移行で自動相関を実行することもできます。自動相関によって多くの時間が節約されますが、この処理を理解し、適切な準備を行うことが重要です。
- PST 移行では、マップされたネットワークドライブ上または共有ネットワークフォルダ内にある PST ファイルが処理されます。PST 移行を使って、ユーザーの各ディスクを検索し、検索されたすべての PST ファイルを移行することはできません。
- PST 移行では、アーカイブを有効にした種類のアイテムのみがアーカイブされます。アーカイブされるアイテムの種類を表示または修正するには、管理コンソールを起動

し、[Exchange PST 移行ポリシー]プロパティの[メッセージクラス]タブに移動します。

- Exchange PST 移行ポリシーにカスタマイズされたショートカットが設定されている場合は、PST 移行でこれらの設定が使われます。それ以外では、Exchange メールボックスポリシーで設定されているショートカットの内容の設定が使われます。
- ウィザードに従って必要なアーカイブ設定を指定します。

PST 移行では、Exchange PST 移行ポリシー以外の設定は使われません。

すべての場合に適した移行処理を指定することは不可能です。たとえば、移行した後に PST ファイルを削除する場合も、引き続き使う場合もあります。PST 移行によって高い柔軟性を提供されますが、移行を実行する方法について慎重に検討する必要があります。

ウィザードによる PST 移行処理の概略

ウィザードを使った PST 移行の概略は、次のとおりです。

移行処理を実行する方法

- 1 所有権を特定するために PST ファイル内でマーカーを使うかどうかを決定します。デフォルトで、PST ファイルにマークが付けられます。Outlook の詳細設定に一覧表示されている[PST ファイルにマーク付け]設定を使って、Exchange デスクトップポリシーの PST ファイルのマーク付けを無効にすることができます。

p.19 の「[PST ファイル所有者を判断するための PST ファイルのマーク付け](#)」を参照してください。
- 2 PST ファイル内のアイテムに割り当てる保持カテゴリを決定します。指定した保持期間ではなく固定の有効期限を持つ保持カテゴリを割り当てる場合は、下のウィザードを実行する前に、それらの保持カテゴリが存在することを確認します。ウィザードでは、保持期間を持つ保持カテゴリを作成できますが、固定の有効期限を持つ保持カテゴリを作成することはできません。
- 3 管理コンソールで、[アーカイブ]コンテナを右クリックし、ショートカットメニューの[PST のインポート]をクリックします。PST 移行ウィザードが起動します。
- 4 使用するボルトストアを選択します。バックアップモードのボルトストアは選択できません。
- 5 Enterprise Vault に移行する PST ファイルを一覧に追加します。複数のマップされたドライブまたはネットワークドライブから PST ファイルを選択できますが、Enterprise Vault Storage Service からそれらのドライブにアクセスする必要があります。
- 6 PST ファイルを移行先アーカイブに関連付ける方法を選択します。自動または手動による関連付けを選択できます。

- 7 マーク付け情報がない PST ファイル、またはマーク付け情報を使わないように設定されている PST ファイルから、アイテムに使うデフォルトの保持カテゴリを指定します。

メモ: Enterprise Vault には保持フォルダや分類機能など、指定した保持カテゴリを上書きできる機能があります。保持について詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。

- 8 各 PST ファイルは、関連付けられているメールボックスと移行先アーカイブが分かっている場合には、それらとともに一覧表示されます。移行を開始する前に、関連付けの一覧をチェックすることが重要です。必要に応じて、PST ファイルの移行先アーカイブを選択したり変更したりすることができます。または、一覧から PST ファイルを削除することもできます。
- 9 各 PST ファイルは、アーカイブされたときにアイテムに適用される保持カテゴリとともに一覧表示されます。必要に応じて、個々の PST ファイルの保持カテゴリを変更できます。既存の保持カテゴリを選択するか、または新しい保持カテゴリを作成できます。

Enterprise Vault には保持フォルダや分類機能など、指定した保持カテゴリを上書きできる機能があることを再度ご確認ください。

- 10 PST 移行で、アーカイブするアイテムへのショートカットを作成するかどうかを指定します。

次のいずれかの処理を実行するように PST 移行を設定できます。

- アイテムをアーカイブし、ショートカットを作成せずに PST から元のアイテムを削除します。
- PST ファイルにショートカットを作成して、アーカイブされた後に元のアイテムを削除します。このオプションは、移行の最後にユーザーが引き続き PST ファイルへのアクセス権を持っている場合に選択される可能性があります。ショートカットを機能させるには、ユーザーがショートカットをメールボックスに移動する必要があります。
- 関連付けられたメールボックスにショートカットを作成して、アーカイブされた後に PST ファイルから元のアイテムを削除します。

- 11 PST 移行で移行されたアイテムへのショートカットをメールボックスに作成するために必要なフォルダ構造を指定します。PST ファイルのルートフォルダに対応しているメールボックスフォルダを指定できます。移行する PST ファイルが複数ある場合は、フォルダ構造をマージするか、別々のままにするかを選択できます。
- 12 移行する PST ファイルの言語を選択します。

- 13** PST 移行で PST ファイルの[削除済みアイテム]フォルダを移行するか、PST ファイルに残すかを指定します。

カレンダーアイテムをアーカイブする場合は、PST 移行で期限の切れていないカレンダーアイテムを移行するかどうかを指定します。

- 14** 処理された後の各 PST ファイルに対する処理を指定します。次の処理を選択できます。

- ファイルをそのまま残します。
- ファイルを削除します。

メモ: 移行処理を開始する前に PST ファイルがバックアップされていることを確認します。

- ファイルを圧縮してディスク領域を解放します。
- ファイルの権限を読み取り専用に設定して、ファイルにアイテムが追加されないようにします。
- ファイルを非表示にします。すべての PST ファイルを同時に移行しない場合は、これにより、まだ移行していない PST ファイルがいくつかあるかがわかりやすくなります。次に PST 移行を実行したとき、デスクトップが隠しファイルを表示しないように設定されていれば、非表示にした PST ファイルは表示されません。

- 15** PST 移行で、移行のレポートファイルを作成するかどうかを指定します。このレポートファイルは、Enterprise Vault インストール先フォルダの Reports サブフォルダに作成されます。

- 16** 移行を開始します。

移行中、PST 移行によって各 PST ファイルの Enterprise Vault イベントログに 2 つのイベント(ファイルの処理の開始時と終了時)が書き込まれます。

アイテムを移行できない場合、そのアイテムは、PST ファイル内の[PST 移行で失敗したアイテム]というフォルダに移動されます。

ウィザードによる PST 移行処理の準備

- 移行時に PST ファイルが使われていることがないようにしてください。そのため、ユーザーが PST ファイルを開いていないことを確認してください。コピーの内容を移行している間でもユーザーがコピー元の PST ファイルを継続して使えるように、PST ファイルのコピーを選択することもできます。
- ボルトサービスアカウントには PST ファイルに対するフルコントロールアクセス権が必要です。異なるアカウントを使って PST 移行を実行する場合は、そのアカウントとボ

ルトサービスアカウントの両方に PST ファイルに対するフルコントロールアクセス権が必要です。

- 移行先のボルトストア用のストレージサービスが実行されている必要があります。
- PST 移行の自動相関では、書き込みアクセス権を持つ複数のユーザーアカウントが設定されている PST ファイルはすべて拒否されます。この場合は、関連付けを手動で実行する必要があります。PST 移行を実行する前に権限を適切に設定する方が簡単な場合もあります。
- PST 移行では、パスワードで保護されている PST ファイルは移行されません。PST 移行を実行する前に、このような保護を削除する必要があります。
代わりに、PST 移行時に Enterprise Vault が PST パスワードを上書きできるようにすることも可能です。パスワードを上書きするには、[個人用ストアの管理]プロパティの[全般]タブで[パスワード保護した PST ファイルのパスワードを上書き]を有効にします。
- PST 移行時に、アイテムは特定の保持カテゴリに割り当てられます。
- PST ファイルがユーザーのディスク上の別の場所に分散している場合は、PST 移行を実行する前に、それらをすべて集中型の場所に移動した方が簡単になることもあります。
- PST ファイルを別のボルトストアに移行する必要がある場合は、PST 移行内で自動相関を実行した後で関連のないファイルを削除する方法を使うと最もすばやくソートできます。
p.38 の「[ウィザードによる PST 移行処理に関するヒント](#)」を参照してください。
- 移行の終了時に自動 PST 圧縮機能を使う場合は、圧縮を行うための領域を確保できるだけの空きディスク容量が必要になります。PST ファイルの最大サイズにそのサイズの約 5% を加えた容量が必要になります。
- PST 移行では、メールボックスに限度として送信禁止と送受信禁止のどちらかが設定されていると、メールボックスの空き容量の限度がチェックされます。この両方の限度を設定した場合は、PST 移行は空き容量の下限を超えるアイテムを移行しません。どちらか 1 つの限度のみが設定されている場合、PST 移行はその制限に従います。メールボックスがいっぱいになっているために PST ファイルの移行が失敗した場合は、メールボックスの空き容量の限度を適切な値に修正し、その PST ファイルを再度移行できます。

ウィザードによる PST 移行処理に関するヒント

- いくつかの PST ファイルを移行して、処理に慣れてきたら、移行するファイル数を増やします。
- 多数の場所にある PST ファイルを移行するよりも、少数の場所にある PST ファイルを移行する方が簡単です。

- PST 移行を実行する前に、PST ファイルのアクセス権限を設定しておかないと、移行に失敗する可能性があります。
- Windows サーバーコマンドラインユーティリティ CACLS を使って、PST ファイルへのフルコントロールアクセス権をボルトサービスアカウントに付与できます。
- PST 移行の複数のインスタンスを実行できます。プロセッサの数を超えるインスタンスを実行しても意味がありません。たとえば、プロセッサが 2 つの場合は、3 つ以上の PST 移行インスタンスを実行しないでください。コンピュータがアーカイブも同時に実行している場合は、PST 移行インスタンスの数を減らしてください。

- Enterprise Vault は、アイテムのアーカイブ時に、コンテンツを HTML に変換してインデックス付けを行います。この処理のデフォルトの変換タイムアウトは 10 分です。Enterprise Vault は 1 つのアイテムに対して 3 回の変換を試行するため、アイテムが失敗して次のアイテムに進むまでに最大 30 分かかります。

PST ファイルに非常に大きいまたは複雑なアイテムがある場合、すべてのアイテムを移行するまでに時間がかかる可能性があります。アイテムのコンテンツにインデックス付けする必要がない場合、変換タイムアウトを数分に設定することでパフォーマンスを向上できます。

変換タイムアウトを変更すると通常のアーカイブにも影響するため、PST ファイルを移行したら必ず元の値に戻してください。

変換タイムアウトを変更するには、次の手順を記載順に実行します。

- ストレージサービスコンピュータで、次の名前前のレジストリ値を、使用するタイムアウト (分単位) に設定します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
  ¥Software
    ¥Wow6432Node
      ¥KVS
        ¥Enterprise Vault
          ¥ConversionTimeout
```

- ストレージサービスを再起動します。
- 同じ場所にある PST ファイルを別のボルトストアに移行する場合は、次の手順で簡単に実行できます。
 - PST 移行を実行し、使用する最初のアーカイブストアを選択します。
 - 他のボルトストアに移動する必要があるものも含め、すべての PST ファイルを選択します。
 - 自動相関を選択します。PST 移行によってボルトストアが開かれ、PST ファイルがそのボルトストア内のアーカイブに関連付けされます。他の PST ファイルはすべて、関連付けされずに残ります。

- 画面上で[アーカイブ]の見出しをクリックし、アーカイブ先でソートします。これによって、アーカイブと一致しないすべての PST が一覧の上部に配置されます。
- アーカイブと一致しないすべての PST をドラッグして選択し、[削除]をクリックします。
- PST 移行の画面に、[すべてのアイテムの移行後に各 PST ファイルに対して行う処理を選択してください。]というメッセージが表示されたら、[非表示にして移行する残りの PST ファイル数をわかりやすくする]を選択します。
- 移行終了時に、PST 移行は移行された PST ファイルを非表示にします。次に PST 移行を実行したとき、これらの PST ファイルは、移行に使用可能な PST ファイルの一覧に表示されません。デスクトップで隠しファイルを表示しないように設定している場合に限り、このファイルは非表示になります。
- PST 移行を再実行してこの操作を繰り返し、別のボルトストアを選択します。
- すべてのボルトストアに対して操作を終了した後に、移行に失敗した PST ファイルが残っている場合があります。PST 移行を再実行し、各 PST の正しいアーカイブを手動で選択します。
- ボルトストアのストレージサービスを実行していないコンピュータ上で PST 移行を実行している場合は、ローカルディスク上の PST を選択できません。ただし、PST はマップ済みネットワークドライブまたは共有ネットワークフォルダから選択できます。

ウィザードを使った PST の移行処理によるユーザーへの影響

- PST ファイルの内容を移行するときに、次のように、移行するアイテムへのショートカットを作成するように選択できます。
- メールボックスにショートカットを作成する場合、PST 移行はメールボックスの新しい最上位レベルのフォルダに PST ファイルのフォルダ構造を複製します。
- ショートカットを、ユーザーがまだアクセス権を持っている PST ファイル内に作成する場合、ショートカットを機能させるには、ユーザーがショートカットをメールボックスに移動する必要があります。
- 移行された PST ファイルに新しいアイテムを格納する場合、移行はいつでも再実行でき、移行済みアイテムへのショートカットも再作成できます。PST 移行によって、その新しいアイテムが移行されます。
- 移行終了時に PST ファイルを削除できます。これを行うと、ユーザーはこれらのファイルを利用できなくなります。
- ユーザーが、新しいメールをメールボックスではなく PST ファイルに配信するように Outlook を設定している場合は、次の Outlook の起動時に次のようにエラーが発生します。

- PST ファイルが存在しない場合は、**Outlook** の起動時にエラーが発生し、新しい PST ファイルを作成するオプションを選択できます。
- PST ファイルはまだ存在するが、読み取り専用の場合は、ユーザーが PST にアクセスするか、またはメールメッセージを作成しようとするときにエラーが発生します。

移行を実行する前にメールが PST ファイルに配信されていないかを確認することを推奨します。

ウィザードによる PST 移行処理の開始

準備手順が完了したら、PST 移行を開始できます。

移行を開始する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[アーカイブ]が表示されるまでビューを展開します。
- 2 [アーカイブ]を右クリックし、ショートカットメニューの[PST のインポート]をクリックします。PST 移行ウィザードが起動します。
- 3 ウィザードに従って操作します。

PST 移行検索および移行

この章では以下の項目について説明しています。

- [検索と移行について](#)
- [PST 検索移行型ツールの設定](#)
- [PST 検索移行型ツールを使った PST ファイルの移行](#)
- [PstLocatorTask.exe.config 設定ファイルを使用した PST 移行からのネットワーク共有の除外](#)
- [PST 移行のトラブルシューティング](#)

検索と移行について

検索移行型ツールは、PST ファイルの内容を **Enterprise Vault** に移行するプロセスの一部を自動化します。検索移行型ツールは、ユーザーのコンピュータ上の PST ファイルを自動的に検索し、集中型の保管領域に移動して、そこから自動的に移行できるようにします。

選択する設定オプションによっては、PST ファイルの移行を承認するために何らかの手作業による介入が必要になることがあります。さらに、パスワードで保護された PST ファイルに対するパスワードの指定も必要になる可能性があります。

パスワード保護された PST ファイルでは、PST の移行の実行中に **Enterprise Vault** がパスワードを強制変更することを許可することができます。この設定は、パスワードが見つからない場合や、誤って指定された場合に便利です。パスワードを上書きするには、[個人用ストアの管理]プロパティの[全般]タブで[パスワード保護した PST ファイルのパスワードを上書き]を有効にします。

検索移行型ツールは、**Enterprise Vault** の次の数種類のタスクで構成されます。

- **PST 検索タスク**。ネットワークを検索してコンピュータと PST ファイルを検索します。PST 検索中に含む、または除外する特定のパスを設定できます。**Enterprise Vault** サイトには、1 つの PST 検索タスクのみ設定できます。

- PST 収集タスク。このタスクで PST 検索タスクが検索した PST ファイルを集中型の PST 保存フォルダに移動し、移行できるように準備します。このタスクは、ファイルを収集するときにファイルの移行の優先度を使います。複数の PST 収集タスクを Enterprise Vault サイトに作成できます。
- PST 移行タスク。このタスクは、PST 保存フォルダに格納されている PST ファイルの内容を Enterprise Vault アーカイブに移行します。このタスクは、ファイルを移行するときにファイルの移行の優先度を使います。複数の PST 移行タスクを Enterprise Vault サイトに作成できます。

PST 検索移行型ツールの設定

表 6-1 では、PST の検索と移行を設定するために必要な準備の概要について説明します。

表 6-1 PST の検索と移行の設定手順

手順	処理	説明
手順 1	PST のマーク付けを使うかどうかを決定します。	p.19 の「 PST ファイル所有者を判断するための PST ファイルのマーク付け 」を参照してください。
手順 2	管理コンソールにある PST 移行オブジェクトの管理に、ボルトサービスアカウント以外のアカウントを使うかどうかを決定します。	p.43 の「 PST の検索と移行を管理するために必要な管理者ロール 」を参照してください。
手順 3	PST 移行ポリシーを作成するか、編集します。	p.12 の「 Exchange PST 移行ポリシーについて 」を参照してください。
手順 4	集中型の PST 保存フォルダとして使われるネットワーク共有を設定します。	p.44 の「 PST 検索および移行の保存フォルダの設定 」を参照してください。
手順 5	PST 検索、PST 収集、PST 移行タスクを作成して、設定します。	p.46 の「 PST 検索、PST 収集、PST 移行タスクの作成と設定 」を参照してください。

PST の検索と移行を管理するために必要な管理者ロール

ボルトサービスアカウント以外のアカウントを使って管理コンソールの PST 移行オブジェクトを管理する場合は、アカウントに PST 管理者ロールとメイン管理者ロールのどちらかが割り当てられている必要があります。ボルトサービスアカウントには、管理コンソールのすべてのオブジェクトと機能に対するアクセス権限があります。

PST 検索、PST 収集、PST 移行タスクの実行に使われるアカウントには、検索するコンピュータと処理する PST ファイルへの適切なアクセス権限が必要です。移行後の操作には、PST 移行タスクにコンピュータと元の PST ファイルへのアクセス権限が必要です。

すべてのタスクにおいて、PST 保存フォルダへの適切なアクセス権限も必要です。

p.44 の「[PST 検索および移行の保存フォルダの設定](#)」を参照してください。

PST 移行タスクのアカウントには、一時ファイルフォルダに対するフルアクセス権が必要です。

p.49 の「[PST 移行タスクの設定方法](#)」を参照してください。

PST 検索タスクに設定されている検索の種類に応じて、各コンピュータ上のレジストリをリモートスキャンできるアカウント、または各コンピュータのドライブへのアクセス権限のあるアカウントのいずれかを使う必要があります。

ドメイン内のすべてのコンピュータに対する十分なアクセス権限をタスクに設定するには、ドメイン管理者グループのメンバーであるアカウントでタスクを実行します。タスクプロパティの[ログオン]ページの設定を使って、アカウントを指定します。

アカウントに必要な権限について詳しくは[ログオン]ページのヘルプを参照してください。また、アカウントには、PST 管理者ロールまたはメイン管理者ロールのどちらかが割り当てられている必要があります。

メモ: ボルトサービスアカウントをドメイン管理者のグループに追加しないでください。

PST 検索および移行の保存フォルダの設定

Enterprise Vault サイトプロパティで PST 保存フォルダを設定します。選択するフォルダは、ネットワーク共有されている必要があります。フォルダの設定に使うアカウント、またはこのサイトにあるすべての Enterprise Vault サーバーで PST 検索、PST 収集、PST 移行タスクを実行するために使うアカウントには、PST 保存フォルダへのアクセス権限が必要です。表 6-2 に、必要なアクセス権限を示します。

表 6-2 PST 保存フォルダに必要なアクセス権限

アカウント	必要なアクセス権限
PST 保存フォルダの設定に使うアカウント	Read. アクセス権限は、必要に応じて設定後に削除できます。
PST の検索タスクが使うログオンアカウント	[削除]。
PST の収集タスクが使うログオンアカウント	[削除]。
PST の移行タスクが使うログオンアカウント	[削除]。

PST 検索および移行の保存フォルダを設定する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault のサイトプロパティを表示します。
- 2 [全般]タブで、[PST 保存フォルダ]の横の[参照]をクリックします。
[通常の共有]または[隠し共有]のどちらの共有を参照するかを尋ねるメッセージが表示されます。
- 3 PST 保存フォルダに指定する共有の種類を選択し、[OK]をクリックします。
- 4 [フォルダの参照]ダイアログボックスで、[ネットワーク全体] > [Microsoft Windows Network]の順に展開します。目的のドメイン、共有が存在するサーバーの順に展開します。表示される共有の一覧には、アカウントにアクセス権限がある共有フォルダが含まれます。
- 5 PST 保存フォルダに使うフォルダを選択して、[OK]をクリックします。
- 6 [OK]をクリックして[サイトプロパティ]を閉じます。

PST の検索と移行のための保存フォルダのサイズの決定

Enterprise Vault サイトプロパティで、PST 保存フォルダの最大サイズをギガバイト単位で指定できます。指定したサイズは各 PST 収集タスクに適用されます。たとえば、最大フォルダサイズを 5 GB に指定すると、設定した PST 収集タスクが 2 つある場合の PST 保存フォルダの最大合計サイズは 10 GB になります。

PST 移行タスクでは、スケジュールされた実行期間で PST 保存フォルダが空になるようにしてください。PST ファイルが PST 保存フォルダに残っている場合は、次のスケジュールされた実行が開始されるまでファイルは移行されません。移行中、PST ファイルは読み取り専用で設定されるため、ユーザーはこれらの PST ファイルに長時間アクセスできません。

次のいずれかの方法によって、PST 移行タスクで PST 保存フォルダが空になるようにすることができます。

- PST 移行タスクがスケジュールされた実行期間中にフォルダを空にできるように PST 保存フォルダに適切な最大サイズを設定します。
- PST 保存フォルダの最大サイズを小さくしてから、フォルダが常にいっぱいになるように PST 収集タスクをスケジュールします。PST 移行タスクのスケジュールが完了する前に PST 収集タスクが終了するようにスケジュールを設定します。これによって、スケジュールされた実行期間中にフォルダを空にするための時間が PST 移行タスクに確保されます。
- PST 移行タスクを実行すると、レポートファイルが作成されます。このレポートの情報を使うと、スケジュールされた実行期間中にタスクが移行できる PST ファイルの平均数を特定できます。PST 収集タスクのプロパティで、PST 保存フォルダに格納できる PST ファイルの最大数を指定できます。

PST 検索、PST 収集、PST 移行タスクの作成と設定

PST 検索移行型ツールを使うには、次のタスクを作成し、設定します。

- **PST 検索タスク。**このタスクによって、ネットワークのドメイン、コンピュータ、PST ファイルが検索されます。PST 検索中に含む、または除外する特定のパスを設定できます。各 Enterprise Vault サイトには、1 つの PST 検索タスクのみを作成できます。クライアント主導の PST 移行には PST 検索タスクは必要ありません。
- **PST 収集タスク。**このタスクで PST 検索タスクが検索した PST ファイルを集中型の PST 保存フォルダに移動し、移行できるように準備します。このタスクは、ファイルを収集するときにファイルの移行の優先度を使います。各 Enterprise Vault サイトには複数の PST 収集タスクを作成できますが、各 Enterprise Vault サーバーに設定できるのは 1 つの PST 収集タスクのみです。PST ファイルの移行先のアーカイブをホストする各 Enterprise Vault サーバーで、PST 収集タスクを設定する必要があります。クライアント主導の PST 移行には PST 収集タスクは必要ありません。
- **PST 移行タスク。**このタスクで PST 保存フォルダに格納されている PST ファイルの内容を Enterprise Vault アーカイブに移行します。このタスクは、ファイルを移行するときにファイルの移行の優先度を使います。複数の PST 移行タスクを Enterprise Vault サイトに作成できます。PST ファイルの移行先のアーカイブをホストする各 Enterprise Vault サーバーで、PST 移行タスクを設定する必要があります。

検索および移行タスクは定義したスケジュールに従って実行されます。ただし、必要に応じて[今すぐ実行]オプションで各タスクをすぐに実行することもできます。

PST 検索タスクを作成する方法

- 1 管理コンソールで、[Enterprise Vault サーバー]コンテナが表示されるまでサイトを展開します。
- 2 [Enterprise Vault サーバー]を展開し、PST 検索タスクを追加するサーバーを展開します。
- 3 [タスク]を右クリックし、ショートカットメニューで[新規作成] > [PST 検索タスク]の順にクリックします。

新しい PST 検索タスクウィザードが起動します。

- 4 ウィザードに従ってタスクを作成します。

PST 収集タスクを作成する方法

- 1 管理コンソールで、[Enterprise Vault サーバー]コンテナが表示されるまでサイトを展開します。
- 2 [Enterprise Vault サーバー]を展開し、PST 収集タスクを追加するサーバーを展開します。

- 3 [タスク]を右クリックし、ショートカットメニューで[新規作成] > [PST 収集タスク]の順にクリックします。

新しい PST 収集タスクウィザードが起動します。

- 4 ウィザードに従って操作します。

PST 移行タスクを作成する方法

- 1 管理コンソールで、[Enterprise Vault サーバー]コンテナが表示されるまでサイトを展開します。

- 2 [Enterprise Vault サーバー]を展開し、PST 移行タスクを追加するサーバーを展開します。

- 3 [タスク]を右クリックし、ショートカットメニューで[新規作成] > [PST 移行タスク]の順にクリックします。

新しい PST 移行タスクウィザードが起動します。

- 4 ウィザードに従って操作します。

移行時に PST ファイルの一時コピーの保存に使うフォルダの場所を指定する必要があります。このフォルダはローカルドライブ上に存在する必要があります。PST 移行タスクの実行に使われるアカウントには、フォルダに対するフルアクセス権が必要です。

メモ: PST 移行タスクが実行されている間、または検索移行型ツールによって PST ファイルが処理されている間は、このフォルダの場所を変更しないでください。

PST 検索、PST 収集、PST 移行タスクを作成したら、タスクプロパティを使って各タスクを設定できます。タスクをダブルクリックして、タスクのプロパティを表示します。

PST 検索タスクの設定方法

PST 検索タスクのプロパティには、次のページが含まれます。

- [全般]。このページのプロパティでは、失敗した操作をタスクが再試行する頻度、および保持するレポートファイル数を設定できます。
- [設定]。このページでは、タスクがドメイン、コンピュータ、PST ファイルを検出する方法を設定します。
 - タスクで NetBIOS または Active Directory のどちらを使って PST ファイルが存在するドメインおよびコンピュータを検出するかを選択します。
 - レジストリまたはハードディスク検索を使ってコンピュータの PST ファイルを検索するようにタスクを設定できます。レジストリ検索では、リモートレジストリ呼び出しを使って PST ファイルの Outlook プロファイルが検索されます。プロファイル内に PST ファイルが見つかった場合は、プロファイルに Exchange メールボックスが

存在します。**Exchange** メールボックスが見つかり、タスクは、プロファイルで参照されているプライマリメールボックスに関連付けられたアーカイブとサイトを特定しようとします。

ハードディスク検索では、指定したコンピュータ上のすべてのローカルハードディスクがスキャンされ、.pst 拡張子を持つファイルが検索されます。**PST** 移行タスクを実行しているコンピュータ上の **PST** 保存フォルダまたは一時移行フォルダは検索されません。すべてのコンピュータにおいて、ごみ箱は検索されません。コンピュータのハードディスクに多数の **PST** ファイルが存在する可能性があるため、最初にレジストリ検索を実行することを推奨します。

メモ: Windows 7 搭載のコンピュータでは、**RemoteRegistry** サービスを有効にして **PST** 検索タスクがレジストリ検索を使用して **PST** ファイルを検索できるようにする必要があります。

- デフォルト設定では、タスクはどのコンピュータの **PST** ファイルも自動的に検索しません。検索するコンピュータを選択する必要があります。[デフォルトで各コンピュータの **PST** を検索]設定を選択すると、タスクは、検索対象のすべてのコンピュータの検索を自動的に開始します。大規模なネットワークではこの処理に長時間かかってしまうため、この設定は注意して使ってください。
- [検索パス]。PST 検索タスクが **PST** を検索する場合に、参照するパスと無視するパスを指定できます。
- [ドメイン]。タスクにより検出されたドメインは、このページに一覧表示されます。このページで選択されているドメインに対してのみ、コンピュータと **PST** ファイルが検索されます。
- [スケジュール]。できるだけ多くのコンピュータと **PST** ファイルにアクセスできるように、コンピュータに電源が入っていて、内部ネットワークに接続されている通常の勤務時間に **PST** 検索タスクが実行されるようにスケジュールすることを推奨します。勤務時間外にタスクが実行されるようにサイトスケジュールが設定されている場合は、このタスクのスケジュールを指定することによってサイトの設定を上書きすることもできます。
- [ログオン]。**PST** 検索タスクの実行に使われるアカウントには、**PST** ファイルを検出するコンピュータへの適切なアクセス権限が必要です。タスクに設定されている検索の種類に応じて、各コンピュータ上のレジストリをリモートスキャンできるアカウント、または各コンピュータのドライブへのアクセス権限のあるアカウントのいずれかを使う必要があります。

ドメイン内のすべてのコンピュータに対する十分なアクセス権限をタスクに設定するには、ドメイン管理者グループのメンバーであるアカウントでタスクを実行します。タスクプロパティの[ログオン]ページの設定を使って、アカウントを指定します。

p.43 の「**PST** の検索と移行を管理するために必要な管理者ロール」を参照してください。

PST 収集タスクの設定方法

PST 収集タスクのプロパティには、次のページが含まれます。

- [全般]。このページのプロパティでは、失敗した操作をタスクが再試行する頻度、および保持するレポートファイル数を設定できます。
- [設定]。このページでは、タスクが **PST** 保存フォルダにコピーした後の **PST** ファイルの処理を設定することができます。
 - このタスクによって **PST** 保存フォルダへのコピーが許可される **PST** ファイルの最大数を設定できます。これは、スケジュールされた実行期間中に **PST** 移行タスクが **PST** 保存フォルダを空にするのための方法の 1 つです。
p.45 の「**PST** の検索と移行のための保存フォルダのサイズの決定」を参照してください。
 - 移行の前に **PST** ファイルをバックアップする場合は、[移行する前に **PST** がバックアップされるまで待機]を選択し、次のうち適切なオプションを選択します。
 - [移行の状態が「移行準備完了」に変更された]。このオプションを選択すると、**PST** 移行タスクは **PST** ファイルの移行の状態が[移行準備完了]になるまで待機します。このオプションを選択した場合は、各 **PST** ファイルでこの状態を手動で設定する必要があります。
 - [ファイル属性「アーカイブ準備完了」がリセットされた]。このオプションを選択すると、**PST** 移行タスクは **PST** ファイルの[アーカイブ準備完了]属性がリセットされるまで待機します。通常、バックアップアプリケーションではこの処理が実行されます。
- [スケジュール]。できるだけ多くのコンピュータと **PST** ファイルにアクセスできるように、コンピュータに電源が入っていて、内部ネットワークに接続されている通常の勤務時間に **PST** 収集タスクが実行されるようにスケジュールすることを推奨します。勤務時間外にタスクが実行されるようにサイトスケジュールが設定されている場合は、このタスクのスケジュールを指定することによってサイトの設定を上書きすることもできます。
- [ログオン]。**PST** 収集タスクの実行に使われるアカウントには、移行対象のコンピュータと **PST** ファイルへの適切なアクセス権限が必要です。ドメイン内のすべてのコンピュータに対する十分なアクセス権限をタスクに設定するには、ドメイン管理者グループのメンバーであるアカウントでタスクを実行します。タスクプロパティの[ログオン]ページの設定を使って、アカウントを指定します。
p.43 の「**PST** の検索と移行を管理するために必要な管理者ロール」を参照してください。

PST 移行タスクの設定方法

PST 移行タスクのプロパティには、次のページが含まれます。

- [全般]。このページのプロパティでは、失敗した操作をタスクが再試行する頻度、および保持するレポートファイル数を設定できます。
- [設定]。このページには、次の設定が含まれます。
 - 移行処理で PST 移行タスクが使う一時ファイルフォルダのローカルドライブの場所。PST 移行タスクを作成するときは、このフォルダの場所を指定します。
ビルディングブロックを設定した場合は、ビルディングブロック環境にあるすべての Enterprise Vault サーバー上の同じフォルダパスを使って一時ファイルフォルダを作成する必要があります。PST 移行タスクが異なるサーバーにフェールオーバーした場合でも、一時ファイルフォルダには同じローカルパスが引き続き使われます。
 - 同時に移行する PST ファイルの最大数。システム設定とワークロードによっては、この値を変更することでパフォーマンスが向上する場合があります。
- [スケジュール]。できるだけ多くのコンピュータと PST ファイルにアクセスできるように、コンピュータに電源が入っていて、内部ネットワークに接続されている通常の勤務時間に PST 移行タスクが実行されるようにスケジュールすることを推奨します。PST ファイルのロック解除、ショートカットの作成、PST ファイルの削除などの移行後の操作には、コンピュータと元の PST ファイルへのアクセス権限が必要です。勤務時間外にタスクが実行されるようにサイトスケジュールが設定されている場合は、このタスクのスケジュールを指定することによってサイトの設定を上書きすることもできます。
- [ログオン]。PST 移行タスクの実行に使われるアカウントには、PST 保存フォルダ、一時ファイルフォルダ、移行対象のコンピュータと PST ファイルへの適切なアクセス権限が必要です。移行後の操作には、コンピュータと元の PST ファイルへのアクセスが必要です。ドメイン内のすべてのコンピュータに対する十分なアクセス権限をタスクに設定するには、ドメイン管理者グループのメンバーであるアカウントでタスクを実行します。タスクプロパティの[ログオン]ページの設定を使って、アカウントを指定します。
p.43 の「PST の検索と移行を管理するために必要な管理者ロール」を参照してください。

PST 検索移行型ツールを使った PST ファイルの移行

このセクションでは、PST の検索移行型ツールを使って、ユーザーのコンピュータ上の PST ファイルを検索し、これらのファイルを Enterprise Vault アーカイブに移行する方法について説明します。以下のセクションでは、手順について詳しく説明します。

ワークロード、利用可能な時間、PST ファイルの数などに応じて、多様な方法でタスクをスケジュールして実行できます。このセクションでは、通常は大規模移行の開始前に行う、比較的少数の PST ファイルを使用した PST 検索移行型ツールのテストに関心があるユーザーを想定しています。

タスクを実行するたびにレポートが作成され、Enterprise Vault インストールフォルダ (C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault\Reports など) の[レポート]サブフォルダに配置されます。

PST 検索移行型ツールを使って PST ファイルを移行する方法

- 1 [今すぐ実行]を使って、または PST 検索タスクの実行をスケジュールして、利用可能なドメインを検出します。タスクプロパティの[ドメイン]ページで、PST ファイルを検索するコンピュータが配置されたドメインを選択します。

p.52 の「[PST 検索タスクの実行によるドメインとコンピュータの検索](#)」を参照してください。

- 2 [今すぐ実行]を使って、または PST 検索タスクの他の実行をスケジュールして、選択したドメインのコンピュータを検出します。このタスクで検出されたすべてのコンピュータが、[個人用ストアの管理] > [コンピュータ]の管理コンソールに一覧表示されます。

- 3 検索する各コンピュータ上の PST ファイルが自動的に検索されるように PST 検索タスクを設定できます。または、管理コンソールの[個人用ストアの管理] > [コンピュータ]で PST ファイルを検索するコンピュータを選択できます。

p.57 の「[PST 検索のコンピュータの選択](#)」を参照してください。

[個人用ストアの管理] > [コンピュータ]コンテキストメニューで[追加]オプションを使用して、PST ファイルを検索するコンピュータを追加することもできます。

p.54 の「[PST 検索のコンピュータの追加](#)」を参照してください。

- 4 [今すぐ実行]を使って、または PST 検索タスクの他の実行をスケジュールして、選択したコンピュータ上の PST ファイルを検索します。このタスクで検出されたすべての PST ファイルが、[個人用ストアの管理] > [ファイル]の管理コンソールに一覧表示されます。

p.59 の「[PST 検索タスクの実行による PST ファイルの検索](#)」を参照してください。

また、[個人用ストアの管理]、[ファイル]コンテキストメニューの[追加]オプションを使って、Enterprise Vault に移行する PST ファイルを追加することもできます。

p.60 の「[移行のための PST ファイルの追加](#)」を参照してください。

- 5 管理コンソールで、必要に応じて、PST ファイルのプロパティの編集、パスワードで保護された PST ファイルのパスワード指定、移行の優先度の変更、PST ファイルの移行状態の変更を行います。

PST 収集タスクでは、[コピー準備完了]状態の PST ファイルが PST 保存フォルダにコピーされます。選択する設定オプションによっては、PST ファイルの移行を承認するために、何らかの手作業の介入が必要になることがあります。たとえば、PST ファイルがバックアップされたときにのみ移行が開始されることがあります。または、特定の PST ファイルの所有権を確認する必要がある場合があります。さらに、パスワードで保護された PST ファイルに対するパスワード指定が必要になったり、または特定の PST ファイルが移行されないようにする必要がある場合もあります。

PST ファイルがパスワードで保護されている場合は、PST 移行時にパスワードを上書きするように Enterprise Vault を設定できます。この設定は、パスワードが見つからない場合や、誤って指定された場合に便利です。パスワードを上書きするには、[個人用ストアの管理]プロパティの[全般]タブで[パスワード保護した PST ファイルのパスワードを上書き]を有効にします。

p.62 の「[PST ファイルプロパティの編集](#)」を参照してください。

- 6 [今すぐ実行]を使って、または PST 収集タスクの実行をスケジュールして、選択した PST ファイルを集中型の PST 保存フォルダにコピーします。

PST 収集タスクは、ファイルのコピー中にファイルの移行ポリシーを考慮します。このタスクでは、優先度の高いファイルを優先してコピーします。

p.63 の「[PST 収集タスクの実行](#)」を参照してください。

- 7 [今すぐ実行]を使って、または PST 移行タスクの実行をスケジュールして、関連付けされた移行先アーカイブに PST ファイルのアイテムをアーカイブします。

PST 移行タスクは、ファイルのアーカイブ中にファイルの移行優先度を考慮します。このタスクでは、優先度の高いファイルを優先して処理します。

p.63 の「[PST 移行タスクの実行](#)」を参照してください。

PST 検索タスクの実行によるドメインとコンピュータの検索

PST 検索タスクは、通常の勤務時間中に実行されるようにスケジュールできます。これにより、タスクは検索可能なコンピュータと PST ファイルの最大数を確実に検出できます。PST 検索タスクによる PST ファイルの検索が完了すると、スケジュール設定した時間帯がまだ終了していなくても、それ以上の処理は実行されません。スキャン実行の合間でスケジュール設定時間帯を増やすことはできますが、スキャン実行後最低 1 日間は各コンピュータに対してスキャンは再実行されません。

PST 検索タスクを初めて実行するときは、利用可能なドメインを検索します。ドメインを選択したら、タスクを検索して再実行し、PST ファイルを検索するコンピュータを検出します。

PST 検索タスクでコンピュータを検索する場合、コンピュータが NetApp デバイスかどうか判断されます。この確認により、コンピュータの検索が遅くなる場合があります。この確認を無効に切り替え、後で NetAPP デバイスをコンピュータの一覧で手動で確認することができます。

p.55 の「[PST 検索タスクによる NetApp デバイスの識別確認の無効化](#)」を参照してください。

PST ファイルを検索する前に、検出されたコンピュータのプロパティを編集して、PST ファイルの検索時に特定のコンピュータを含めたり、除外したりできます。その後、タスクを再実行して、選択したコンピュータ上の PST ファイルを検索することができます。

また、[個人用ストアの管理] > [コンピュータ] コンテキストメニューにある[追加]オプションを使用して、PST ファイルを検索するタスクにコンピュータを追加することもできます。

p.54 の「[PST 検索のコンピュータの追加](#)」を参照してください。

PST 検索タスクを実行してドメインを検索する方法

- 1 管理コンソールの[タスク]一覧で、PST 検索タスクを右クリックし、[開始]をクリックします。
- 2 次のいずれかを実行します。
 - タスクを右クリックして、[今すぐ実行]をクリックします。
 - PST 検索タスクがスケジュールされた実行時間になるまで待機します。

検索されたドメインが、PST 検索タスクプロパティの[ドメイン]ページに一覧表示されます。
- 3 PST 検索タスクのプロパティを開いて、PST ファイルを検索するコンピュータがあるドメインを選択します。
- 4 [OK]をクリックしてタスクプロパティを閉じ、変更を適用するためにタスクを再実行します。

PST 検索タスクを実行してコンピュータを検索する方法

- 1 次のいずれかを実行します。
 - PST 検索タスクを右クリックし、[今すぐ実行]をクリックします。表示されたダイアログボックスで、[新しいコンピュータを検索]が選択されていることを確認します。

- PST 検索タスクがスケジュールされた実行時間になるまで待機します。
- 2 タスクによって、タスクプロパティで選択したドメインのコンピュータが検索されます。ネットワーク上で検出されたコンピュータは、管理コンソールの[個人用ストアの管理]、[コンピュータ]の下に一覧表示されます。タスクを複数回実行して、コンピュータの一覧を増やしてから PST ファイルの検索を開始することができます。
- 3 コンピュータの一覧で、タスクで PST ファイルを検索するコンピュータを選択します。
p.57 の「[PST 検索のコンピュータの選択](#)」を参照してください。
小規模なネットワークで、検出するすべてのコンピュータをタスクで自動的に検索する場合は、PST 検索タスクのプロパティの[設定値]ページで[デフォルトで各コンピュータの PST を検索]を選択します。
また、PST ファイルの検索でパスを含むか、除外するかを指定できます。
p.58 の「[PST 検索に含むまたは除外するパスの設定](#)」を参照してください。

PST 検索のコンピュータの追加

ネットワーク上で検出されたコンピュータは、管理コンソールの[個人用ストアの管理]、[コンピュータ]の下に一覧表示されます。次のいずれかの方法によって、PST 検索タスクに PST ファイルの検索を実行させるコンピュータを追加できます。

- 単一のコンピュータを追加します。
- CSV ファイルを使用して複数のコンピュータを追加します。

単一のコンピュータを追加して PST ファイルを検索する方法

- 1 管理コンソールで、[個人用ストアの管理] > [コンピュータ]を展開します。
- 2 右クリックして、メニュー上で[追加] > [単一]を選択します。
- 3 [PST ファイルを検索するコンピュータを追加]ダイアログボックスで、目的のコンピュータを参照して追加します。
- 4 [関連付けされたメールボックス]の横にある[参照]をクリックして、利用可能なメールボックスの一覧から目的のメールボックスを選択します。必要に応じて、[関連付けされたメールボックス]を空白のままにすることができます。
- 5 [PST 検索タスク実行時にこのコンピュータを検索する]チェックボックスを選択して、PST 検索タスクの実行時のコンピュータの検索を有効化します。

複数のコンピュータを追加して PST ファイルを検索する方法

- 1 次の形式で、追加するコンピュータの詳細を CSV ファイルにそれぞれ別個の行で指定します。

Name, Mailbox, EnableSearch

それぞれの内容は次のとおりです。

- *Name* (必須) は追加するコンピュータの名前です。コンピュータの NetBIOS または完全修飾ドメイン名を指定できます。
- *Mailbox* (省略可能) は、検出された PST ファイルをアーカイブで関連付けるメールボックスの表示名です。
- *EnableSearch* (省略可能) は、PST 検索タスクでこのコンピュータの PST ファイルを検索する必要があるかどうかを指定します。
0 - このコンピュータの PST ファイルを検索しない。
1 - このコンピュータの PST ファイルを検索する。

次の点に注意してください。

- CSV ファイルは Unicode ファイルとして保存する必要があります。Windows メモ帳を使うと、そのようなファイルを作成できます。
- CSV ファイルの 1 行目が処理に失敗すると、Enterprise Vault は行をヘッダー行と見なして、処理時に無視します。
- 値にスペースまたはカンマが含まれる場合は値を引用符で囲みます。
- 省略可能のパラメータを指定しない場合でも区切り記号が必要です。

例:

```
Name,Mailbox,EnableSearch,DirectoryName,SiteName
abc.xyz.com,"User 1",,,
pqrl.joe.com,,1,Directory1,Site1
xuv23j3.smith.com,,,,
```

- 2 管理コンソールで、[個人用ストアの管理] > [コンピュータ]を展開します。
- 3 右クリックして、メニュー上で[追加] > [複数]を選択します。
- 4 [PST ファイルを検索するコンピュータを追加]ダイアログボックスで、追加するコンピュータの詳細を含む CSV ファイルを参照して選択します。

Enterprise Vault 管理シェルには、単一または複数の移行対象 PST ファイルを追加できる Add-EVPstComputer cmdlet も用意されています。

p.64 の「PST 移行の PowerShell コマンドレット」を参照してください。

PST 検索タスクによる NetApp デバイスの識別確認の無効化

PST 検索タスクでコンピュータを検索する場合、コンピュータが NetApp デバイスかどうか判断されます。この確認により、コンピュータの検索が遅くなる場合があります。このセクションでは、コンピュータ検索時に、PST 検索タスクによる NetApp デバイスの自動識別を無効にする方法について説明します。NetApp デバイスは、管理コンソールでコンピュータのプロパティを編集することによって、後で手動で確認できます。

p.57 の「[PST 検索のコンピュータの選択](#)」を参照してください。

NetApp デバイスの自動識別を無効にするには、ファイル PstLocatorTask.exe.config で設定を行います。このファイルおよびこのファイルのサンプルバージョンは、Enterprise Vault のプログラムフォルダ (たとえば C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault) にあります。サンプルファイルには、PstLocatorTask.exe.config で行える設定の例が含まれています。

NetApp デバイスの自動識別を無効にする方法

- 1 PST 検索タスクを実行する Enterprise Vault サーバーで、Windows エクスプローラを起動して Enterprise Vault プログラムフォルダ (たとえば C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault) にナビゲートします。
- 2 ファイル PstLocatorTask.exe.config を安全な場所にコピーします。
- 3 PstLocatorTask.exe.config がスタブバージョンのファイルの場合は、サンプルファイル Example PstLocatorTask.exe.config をコピーして名前変更し、このファイルと置き換えます。
- 4 Windows のメモ帳などのテキストエディタで PstLocatorTask.exe.config ファイルを開きます。
- 5 次のテキストを検索します。

```
<PSTSettings>
```

- 6 次のいずれかの操作を行います。

- サンプルバージョンをコピーし、名前変更してファイルを作成した場合は、次の行が <PSTSettings> の下のエントリに存在します。

```
<!--Determine whether computer is a NetApp Filer: Default:
true-->
<add key="LocateNetAppFilers" value = "true"/>
```

この設定値を "false" に変更します。

- このファイルを前のリリースで作成していた場合は、次の行を <PSTSettings> の下に追加します。

```
<!--Determine whether computer is a NetApp Filer: Default:
true-->
<add key="LocateNetAppFilers" value = "false"/>
```

- 7 ファイルを保存して閉じます。
- 8 管理コンソールで PST 検索タスクを再開します。

PST 検索のコンピュータの選択

ネットワーク上で検出されたコンピュータは、管理コンソールの[個人用ストアの管理]、[コンピュータ]の下に一覧表示されます。次のいずれかの方法で、PST ファイルを検索するコンピュータを選択できます。

- 複数のコンピュータを一括で選択します。
- 個々のコンピュータのプロパティを編集します。

コンピュータのプロパティを編集して、PST ファイルを検索するときに PST 検索タスクが検索するパスと、無視するパスを指定することができます。

また、[個人用ストアの管理] > [コンピュータ] コンテキストメニューにある[追加]オプションを使用して、PST ファイルを検索するタスクにコンピュータを追加することもできます。

p.54 の「[PST 検索のコンピュータの追加](#)」を参照してください。

メモ: PST 検索タスクは、「vFiler」とも呼ばれる NetApp MultiStore でハードディスクの検索を実行できません。NetApp Filer は、バージョン 1.4 以降の ONTAPI 管理 API で設定されている必要があります。ONTAPI インターフェースは、NetApp 社製品の基礎となる API です。バージョン 1.4 は、Data ONTAP 7G 以降のリリースで提供されています。サポートされているデバイスとソフトウェアのバージョンの最新情報について詳しくは、『Enterprise Vault [Compatibility Charts](#)』を参照してください。

PST 検索からコンピュータを除外するには、コンピュータのプロパティを編集します。

検索するコンピュータを複数選択する方法

- 1 管理コンソールの[個人用ストアの管理]、[コンピュータ]を展開して、ネットワーク上で検出されたコンピュータの一覧を表示します。
- 2 Ctrl キーまたは Shift キーを押したまま、検索するコンピュータをハイライトします。
- 3 メニュー上で右クリックして、[プロパティ]を選択します。
- 4 ダイアログボックスに、選択したコンピュータを PST 検索タスクで検索するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。ハイライトされたコンピュータを検索する場合は、[はい]をクリックします。

[検索]列に、選択した各コンピュータに対して[はい]が表示されます。

個々のコンピュータのプロパティを編集する方法

- 1 管理コンソールの[個人用ストアの管理]、[コンピュータ]を展開して、ネットワーク上で検出されたコンピュータの一覧を表示します。
- 2 PST ファイルの検索に含めるコンピュータの名前をダブルクリックします。コンピュータのプロパティページが表示されます。

- 3 PST 検索にコンピュータを含める場合は、[PST 検索タスク実行時にこのコンピュータを検索する]を選択します。

PST 検索からコンピュータを除外する場合は、このオプションのチェックボックスのチェックマークをはずします。
- 4 コンピュータが NetApp Filer である場合は、[設定値]タブをクリックして、[このコンピュータは NetApp Filer です]が選択されていることを確認します。

このオプションは PST 検索タスクが NetApp Filer を追加するときに自動的に選択されます。ただし、PST の検索タスクが見つけたときにコンピュータを使用できない場合、自動的に選択されません。
- 5 このコンピュータ内の PST ファイルを検索するときに、PST 検索タスクに含めるまたは除外する検索パスを指定するには、[検索パス]タブをクリックします。
- 6 [OK]をクリックしてプロパティを閉じます。

PST 検索に含むまたは除外するパスの設定

PST 検索タスクを編集して、PST ファイルの検索時に PST 検索タスクに探させる、または無視させるパスを設定できます。コンピュータのプロパティページを編集して、PST 検索に含むまたは除外するパスを指定することもできます。

PstLocatorTask.exe.config ファイルを使って、PST 検索から特定のネットワーク共有を除外することもできます。

p.67 の「[PstLocatorTask.exe.config 設定ファイルを使用した PST 移行からのネットワーク共有の除外](#)」を参照してください。

PST 検索のパスを設定するには

- 1 次のいずれかを実行します。
 - 管理コンソールの[タスク]一覧で、PST 検索タスクを右クリックし、ショートカットメニューで[プロパティ]をクリックします。
 - 管理コンソールの[個人用ストアの管理]、[コンピュータ]を展開して、ネットワーク上で検出されたコンピュータの一覧を表示します。コンピュータの名前を選択し、ショートカットメニューで[プロパティ]をクリックします。
- 2 [検索パス]タブをクリックします。
- 3 [検索に含める]で次のいずれかを実行します。
 - コンピュータ全体で PST ファイルの完全検索を PST 検索タスクに実行させるには、[すべてのコンピュータを検索]を選択します。

- PST 検索時に含むパスを追加するには、[特定のパスを検索]を選択し、[パスを追加]をクリックします。
- 4 PST 検索からパスを除外するには、[検索から除外]で[パスを追加]をクリックして除外するパスを追加します。

メモ: 除外するように指定したパスは、検索に含めたパスのサブパスである必要があります。

PST 検索タスクの実行による PST ファイルの検索

ここで PST 検索タスクを実行すると、検索対象に選択したコンピュータ上の PST ファイルが検索されます。コンピュータの Outlook プロファイル(レジストリ検索)、またはコンピュータのハードディスク(ハードディスク検索)で PST ファイルを検索するようにタスクを設定できます。

ハードディスクの検索時、タスクでは、コンピュータ上の PST 保存フォルダや、PST 移行タスクが実行されている PST 移行の一時ファイルフォルダは検索されません。すべてのコンピュータにおいて、ごみ箱フォルダは検索されません。

また、[個人用ストアの管理] > [ファイル] コンテキストメニューにある[追加]オプションを使用して、移行のための PST ファイルを追加することもできます。

p.60 の「[移行のための PST ファイルの追加](#)」を参照してください。

PST 検索タスクを実行して PST ファイルを検索する方法

- 1 次のいずれかを実行します。
 - PST 検索タスクを右クリックし、ショートカットメニューの[今すぐ実行]をクリックします。表示されたダイアログボックスで、必要に応じて[レジストリを検索]または[ハードディスクを検索]を選択します。

メモ: Windows 7 搭載のコンピュータでは、RemoteRegistry サービスを有効にして PST 検索タスクがレジストリ検索を使用して PST ファイルを検索できるようにする必要があります。

- PST 検索タスクがスケジュールされた実行時間になるまで待機します。
- 2 このタスクによって、選択したコンピュータ上の PST ファイルが検索されます。検索された PST ファイルは、管理コンソールの[個人用ストアの管理]、[ファイル]の下に一覧表示されます。特定の移行状態または特定のユーザーに対して PST ファイルにフィルタをかけることができます。
- 3 PST 収集タスクで PST 保存フォルダに PST ファイルをコピーするには、PST ファイルのプロパティを編集し、不足している情報を指定して状態を[コピー準備完了]に変更する必要があります。

p.62 の「[PST ファイルプロパティの編集](#)」を参照してください。

移行のための PST ファイルの追加

ネットワーク上で検出された PST ファイルは、管理コンソールの[個人用ストアの管理] > [ファイル]の下に一覧表示されます。次のいずれかの方法で、移行する PST ファイルを追加することもできます。

- 単一の PST ファイルを追加します。
- CSV ファイルを使用して複数の PST ファイルを追加します。

単一のファイルを追加して移行する方法

- 1 管理コンソールで、[個人用ストアの管理] > [ファイル]を展開します。
- 2 右クリックして、メニュー上で[追加] > [単一]を選択します。
- 3 [PST ファイルを追加]ダイアログボックスで、PST ファイルを参照して追加します。

複数の PST ファイルを追加して移行する方法

- 1 次の形式で、追加する PST ファイルの詳細を CSV ファイルにそれぞれ別個の行で指定します。

UNCPath, Mailbox, Archive, ArchiveType, RetentionCategory, Priority, Language

それぞれの内容は次のとおりです。

- *UNCPath* (必須) は UNC パスと追加する PST ファイルのファイル名です。
- *Mailbox* (省略可能) はこの PST ファイルをアーカイブで関連付けるメールボックスの表示名です。
- *Archive* (省略可能) はアーカイブの名前です。
- *ArchiveType* (省略可能) はアーカイブの種類です。[Exchange メールボックス]または[インターネットメール]のいずれかを指定できます。メールボックスを指定すると、PST は関連付けられた Exchange メールボックスアーカイブに移行されます。メールボックスを指定しない場合、Enterprise Vault では Exchange メールボックスアーカイブとインターネットメールアーカイブの両方でアーカイブが検索されます。アーカイブが 1 つのみ検出されると、Enterprise Vault ではそ

のアーカイブの種類がファイルのアーカイブの種類に設定され、検出されたアーカイブにファイルが移行されます。複数のエントリが検出された場合、**Enterprise Vault** では **Exchange** メールボックスアーカイブにファイルが移行されます。メールボックスはインターネットメールアーカイブに関連付けることができません。

- *RetentionCategory* (省略可能) はアーカイブ時にこの PST ファイルの内容に適用する保持カテゴリです。

メモ: **Enterprise Vault** には保持フォルダや分類機能など、指定した保持カテゴリを上書きできる機能があります。保持について詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。

- *Priority* (省略可能) は、PST 移行がこのファイルの内容の移行を開始するときに使う優先度です。
 - 1 - 危険
 - 2 - 重要
 - 3 - 高
 - 4 - 標準
 - 5 - 低
 - 6 - 最低
- *Language* (省略可能) はメールボックスでフォルダ名を作成する必要がある場合に PST 移行が使う言語を指定します。PST 移行は、PST ファイルの作成時に使われたのと同じ **Windows** コードページを使う必要があります。

次の点に注意してください。

- CSV ファイルは **Unicode** ファイルとして保存する必要があります。**Windows** メモ帳を使うと、そのようなファイルを作成できます。
- CSV ファイルの 1 行目が処理に失敗すると、**Enterprise Vault** は行をヘッダー行と見なして、処理中に無視します。
- 値にスペース文字またはカンマが含まれる場合は値を引用符で囲みます。
- 省略可能のパラメータを指定しない場合でも区切り記号が必要です。

次に例の CSV ファイルを示します。

```
UNCPath,Mailbox,Archive,ArchiveType,RetentionCategory,Priority,Language,
DirectoryServer,SiteName
```

```
¥¥Server¥E$¥PSTBackup¥Backup.pst,"Mailbox,Z",Archive,"Exchange Mailbox",Default,2,
Western European,,
```

```
¥¥abc.xyz.com¥c$¥user1.pst,,,"IMAP1","Internet Mail",RC1,1,Arabic,EVServer1,SiteA
¥¥Server1¥D$¥PSTs¥HR.pst,,,,,,,,,
```

- 2 管理コンソールで、[個人用ストアの管理] > [ファイル]を展開します。
- 3 右クリックして、メニュー上で[追加] > [複数]を選択します。
- 4 [複数の PST ファイルを追加]ダイアログボックスで、追加するファイルの詳細を含む CSV ファイルを参照して選択します。

Enterprise Vault 管理シェルには、単一または複数の移行対象 PST ファイルを追加できる Add-EVPstFile cmdlet も用意されています。

p.64 の「PST 移行の PowerShell コマンドレット」を参照してください。

PST ファイルプロパティの編集

検索された PST ファイルの通常の状態は[移行しない]です。PST 収集タスクで PST 保存フォルダにファイルをコピーする準備が完了したら、管理コンソールで PST ファイルのプロパティを編集し、状態を「コピー準備完了」に変更します。

メッセージのサンプリングを使って PST ファイル所有者を特定する場合、所有権 ID に応じて、Enterprise Vault が自動的に状態を[コピー準備完了]に変更します。

PST 検索タスクで PST ファイルの所有権、関連付けされたメールボックス、対応するアーカイブが特定されない場合は、表示される PST ファイルの状態は「未準備」になります。PST ファイルのプロパティを編集し、必要な情報を指定して状態を「コピー準備完了」に変更する必要があります。

必要に応じて、PST ファイルのプロパティの[設定値]タブを使って、パスワードで保護されたファイルのパスワードを指定できます。

PST ファイルのプロパティを編集する方法

- 1 管理コンソールの一覧で、PST ファイル名をダブルクリックして、PST ファイルのプロパティを表示します。
- 2 [全般]ページで、次のいずれかを行います。
 - [メールボックス]の横の[参照]をクリックし、PST ファイルを所有するユーザーのメールボックスを選択します。対応するアーカイブが自動的に選択されます。
 - [アーカイブ先]の横の[参照]をクリックし、PST ファイルを所有するユーザーのメールボックスのアーカイブを選択します。対応するメールボックスが自動的に選択されます。
- 3 [設定値]ページで、必要に応じて次のように設定します。
 - この PST ファイルで使われる保持カテゴリを指定します。
 - この PST ファイルのフォルダを作成するときに使われる Windows コードページを選択します。

- 移行の優先順位として、危険、重要、高、標準、低、最低を指定します。デフォルトの優先度は中です。
 - パスワードで保護されている場合は、PST ファイルのパスワードを指定します。
- 4 必要な詳細の入力を完了したら、[全般]ページの移行状態を[コピー準備完了]に変更します。

PST 収集タスクの実行

PST 収集タスクは、ユーザーのコンピュータの PST ファイルを PST 保存フォルダにコピーします。状態が[コピー準備完了]の PST ファイルのみがコピーされます。ファイルを収集するときファイルの移行の優先度を使います。優先度の高いファイルが最初にコピーされます。

PST 移行タスクがスケジュールされた実行期間中にすべてのファイル进行处理できるように、保留領域に格納されるファイルの数を制限できます。これにより、PST ファイル内のアイテムを使えなくなる期間が、可能な限り短縮されます。

タスクで使われるアカウントには、PST ファイルの元の場所に対する削除アクセス権限が必要です。タスクに適切なアクセス権限を持たせる最も簡単な方法は、ドメイン管理者グループのアカウントを使ってタスクを実行することです。

p.43 の「[PST の検索と移行を管理するために必要な管理者ロール](#)」を参照してください。

PST 収集タスクを実行する方法

- 1 管理コンソールの[タスク]一覧で、PST 収集タスクを右クリックし、ショートカットメニューで[開始]をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - タスクを右クリックし、ショートカットメニューの[今すぐ実行]をクリックします。
 - PST 収集タスクがスケジュールされた実行時間になるまで待機します。

PST 移行タスクの実行

PST 移行タスクは、PST 保存フォルダ内の PST ファイルの内容を Enterprise Vault アーカイブにアーカイブします。Enterprise Vault サイトには複数の PST 移行タスクを作成できますが、各 Enterprise Vault サーバーに設定できるのは 1 つの PST 移行タスクのみです。PST ファイルの移行先のアーカイブをホストする各 Enterprise Vault サーバーで、PST 移行タスクを設定する必要があります。このタスクは、状態が[移行準備完了]の PST ファイルの内容をアーカイブします。ファイルを移行するときファイルの移行の優先度を使います。優先度の高いファイルが最初にコピーされます。

PST ファイルがバックアップされるまで待機してから PST 移行タスクが (PST 収集タスクプロパティの) 内容をアーカイブするように PST 移行ツールを設定した場合、PST ファ

イルの状態が[バックアップ準備完了]と表示されることがあります。ファイルがバックアップされると、状態は自動的に変更されます。

PST 移行タスクを実行する方法

- 1 管理コンソールの[タスク]一覧で、PST 移行タスクを右クリックし、ショートカットメニューで[開始]をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作を行います。

■ タスクを右クリックし、ショートカットメニューの[今すぐ実行]をクリックします。

■ PST 移行タスクがスケジュールされた実行時間になるまで待機します。
- 3 ファイルの内容がアーカイブされると、PST ファイルの状態が[後処理準備完了]と表示されます。

PST 移行タスクで PST ファイルの処理が正常に終了すると、PST ファイルの状態に[完了]と表示されます。電子メールの通知設定によっては、エンドユーザーのメールボックスに電子メールが送信されます。

何らかの問題でタスクの処理が完了しなかった場合は、管理コンソールの PST ファイルのプロパティにある[詳細情報]フィールドに詳細が表示されます。実行中に生成されるレポートファイルを確認することもできます。

PST 移行の PowerShell コマンドレット

Enterprise Vault では、2 つの PowerShell コマンドレットが提供されています。これらのコマンドレットは、コンピュータを追加して PST 移行先を検索および移行する目的、また内容を Enterprise Vault への移行対象とする PST ファイルを追加する目的で使用できます。

PST 移行コマンドレットについて

表 6-3 では Enterprise Vault 管理シェルが提供する PST 移行コマンドレットについて説明します。

表 6-3 PST 移行コマンドレット

cmdlet	説明
Add-EVPstComputer	<p>PST 移行の検索先と移行先コンピュータの一覧にコンピュータを追加します。</p> <p>Add-EVPstComputer の使い方に応じて、Enterprise Vault はそのコンピュータで PST ファイルを検索できます。</p> <p>個々のユーザーに属するコンピュータを追加したり、多くのユーザーに属する PST ファイルをホストするファイルサーバーを追加できます。</p>

cmdlet	説明
Add-EVPstFile	内容を Enterprise Vault に移行する PST ファイルを追加します。

これらのコマンドレットは、個別に使用して個々のコンピュータやファイルを追加すること
も、PowerShell の Import-Csv コマンドレットおよび CSV データとともに使用して 1 回
の操作で複数のコンピュータやファイルを追加することもできます。

PST 移行コマンドレットの実行

PST の移行のコマンドレットを実行するためには、最初に Enterprise Vault 管理シェル
を実行してください。これによって、PST 移行コマンドレットをシェルで使えるようにする
Enterprise Vault スナップインがロードされます。

cmdlet ではヘルプが利用できます。たとえば、次のコマンドを実行すると
Add-EVPstComputer の詳細なヘルプが表示されます。

```
Get-Help Add-EVPstComputer -detailed
```

Add-EVPstComputer の使用

Add-EVPstComputer を実行するには次の構文を使います。

```
Add-EVPstComputer -Name <string> [-Mailbox <string>] [-EnableSearch]
[-SiteName <string>] [-DirectoryServer <string>]
```

次に例を示します。

```
C:\¥PS>Add-EVPstComputer -Name JohnDoeLaptop -Mailbox "John Doe"
-EnableSearch
```

これによって、PSTの移行先としてジョン・ドウのノートパソコンが追加され、また Enterprise
Vault で移行された項目のためのショートカットが配置されるジョンのメールボックスが指
定されます。

Add-EVPstFile の使用

Add-EVPstFile を実行するには、次の構文を使います。

```
Add-EVPstFile -UNCPath <string> [-Mailbox <string>] [-Archive
<string>] [-ArchiveType <string>] [-RetentionCategory <string>]
[-PasswordProtected] [-Language <string>] [-Priority <string>]
[-SiteName <string>] [-DirectoryServer <string>]
```

次に例を示します。

```
C:¥PS>Add-EVPstFile -UNCPath  
¥¥FileServer1¥UserShares¥VIPs¥JohnDoe¥PSTs¥2012.pst
```

これによって、指定済みの PST ファイルが Enterprise Vault に移行するために追加されます。

複数のコンピュータから PST ファイルの追加

Enterprise Vault の PST 移行コマンドレットは、個々のコンピュータを追加して PST 移行先を検索および移行するか、個々の PST ファイルを追加して移行します。複数のコンピュータまたは PST ファイルを単一の操作で追加するには、Import-Csv PowerShell cmdlet、すべてのコンピュータまたはファイルとそれに関連付けられたパラメータを含む CSV ファイルを使います。

複数のコンピュータを追加するには、管理コンソールで複数のコンピュータを追加する場合に使う形式と同じ形式で CSV データを構築します。

p.54 の「[PST 検索のコンピュータの追加](#)」を参照してください。

複数の PST ファイルを追加するには、管理コンソールで複数のファイルを追加する場合に使う形式と同じ形式で CSV データを構築します。

p.60 の「[移行のための PST ファイルの追加](#)」を参照してください。

Import-Csv によって CSV ファイルから読み取られるデータを適切な PST 移行 cmdlet に渡すことができます。次に例を示します。

```
Import-Csv C:¥files.csv | Add-EVPstFile
```

これは、C:¥files.csv からデータを読み取り、Add-EVPstFile cmdlet に渡します。

デフォルトでは、Import-Csv は CSV データからの各値を文字列として渡します。ただし、Add-EVPstComputer cmdlet を使う場合は、-EnableSearch をブール値として渡す必要があります。

Add-EVPstComputer と Import-Csv を組み合わせて使う場合は、CSV データからの -EnableSearch 値をブール値に変換する必要があります。次に例を示します。

```
Import-Csv c:¥computers.csv | % { $_.EnableSearch =  
[bool]([int]$_.EnableSearch); $_ } | Add-EVPstComputer
```

Import-Csv の使用について詳しくは、PowerShell に次のコマンドを入力してください。

```
Get-Help Import-Csv -detailed
```

PstLocatorTask.exe.config 設定ファイルを使用した PST 移行からのネットワーク共有の除外

設定ファイル **PstLocatorTask.exe.config** にネットワーク共有を一覧表示することで、PST ファイルの検索時に特定のネットワーク共有を除外できます。

PstLocatorTask.exe.config 設定ファイルを使用して PST の移行からネットワーク共有を除外する方法

- 1 PST 検索タスクを実行する Enterprise Vault サーバーで、Windows エクスプローラを起動して Enterprise Vault プログラムフォルダ(たとえば C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault)にナビゲートします。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - フォルダに **PstLocatorTask.exe.config** ファイルが存在する場合、このファイルを安全な場所にコピーします。
 - **PstLocatorTask.exe.config** ファイルが存在しない場合は、Example **PstLocatorTask.exe.config** をコピーして名前を変更し、**PstLocatorTask.exe.config** ファイルを作成します。
- 3 Windows のメモ帳などのテキストエディタで **PstLocatorTask.exe.config** ファイルを開きます。
- 4 次のテキストを検索します。


```
<PSTSettings>
```
- 5 この見出しのすぐ下に行を追加し、検索から除外するネットワーク共有を一覧表示します。構文は次のとおりです。


```
<add key="SharesToAvoid" value="share_1;share_2;share_3..." />
```

share_1、share_2 などは、ネットワーク共有の UNC パスをセミコロンで区切った一覧です。たとえば、\\myComputer\C\$ と \\yourComputer\G\$ の共有を除外するには、次のように入力します。

```
<add key="SharesToAvoid" value="\\myComputer\C$;\\yourComputer\G$" />
```
- 6 ファイルを保存して閉じます。
- 7 管理コンソールで PST 検索タスクを再開します。

PST 移行のトラブルシューティング

PST 移行エラーのトラブルシューティングに役立つタスクレポートファイルを使うことができます。タスクが実行されるたびに、レポートが作成されて、Report フォルダに格納され

ます。このフォルダは、Enterprise Vault プログラムフォルダのサブフォルダ(たとえば C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault\Reports)です。レポートのファイル名の形式は次のとおりです。

- PSTLocTask_server_datetime.txt
- PSTColTask_server_datetime.txt
- PSTMigTask_server_datetime.txt

ユーザーのコンピュータ上でファイル共有が有効になっていないと、PST 検索タスクはそのコンピュータのレジストリまたはファイルを検索できません。Windows では、ファイル共有は自動的に有効になりません。PST 検索タスクがレジストリまたはファイルを検索できない場合、レポートファイルで次のようなエラーが発生します。

```
** 18/07/2005 14:34:21 Hard disk search failure on DEMO : Failed to  
read registry to get list of drives : The network path was not  
found. **
```

```
** 18/07/2005 14:34:21 Registry search failure on DEMO : The network  
path was not found. **
```

このエラーは、Windows ファイアウォールが起動されている場合にも報告されます。ファイアウォールが起動されている場合は、「ファイルとプリンタ共有」の TCP ポート 139 と 445 に対して Windows ファイアウォールの例外を作成する必要があります。

PST 移行: クライアント主導型移行

この章では以下の項目について説明しています。

- クライアント主導型の PST 移行について
- クライアント主導型 PST 移行のための準備
- クライアント主導型 PST 移行での PST 移行メッセージの編集
- クライアント主導型 PST 移行のための PST 保存フォルダの設定
- クライアント主導型 PST 移行のための PST 移行タスクの作成
- クライアント主導型 PST 移行のためのメールボックスの有効化
- ネットワークドライブに保存されている PST ファイルの移行に必要な権限

クライアント主導型の PST 移行について

PST ファイルを Enterprise Vault サーバー上の集中型の PST 保存フォルダに自動的に移行するように Enterprise Vault Outlook アドインを設定できます。この場合、PST 移行タスクによって PST ファイルが処理され、内容がアーカイブされます。

ストレージサービスをホストし、PST ファイルを移行する予定のアーカイブを管理する各 Enterprise Vault サーバーで、PST 移行タスクを設定する必要があります。PST ファイルを移行すると、移行先アーカイブを管理する Enterprise Vault サーバーで移行処理が実行されます。

クライアント主導型 PST 移行は、次のような場合に便利です。

- ユーザーのコンピュータ上の PST ファイルにアクセスする権限がありません。
- ユーザーが継続的に PST ファイルにアクセスする必要がある場合。

- ユーザーのコンピュータがネットワーク上でたまにしか利用可能でない場合、たとえばラップトップコンピュータのユーザーが週に 1 回しか出勤しない場合などです。
- PST ファイル移行をユーザーに制御させたい場合。

クライアント主導型移行の処理の概要は次のとおりです。

- メールボックスでクライアント主導の PST 移行を有効にします。
ユーザーが PST ファイルの移行をより細かく制御するかどうかに応じて、移行するファイルをユーザーが選択することを許可できます。
- 新しく有効になったメールボックスに、説明のメールメッセージがただちに送信されます。
- ユーザーが次に Outlook を起動すると、PST ファイルの検索のためにコンピュータがスキャンされます。
- ユーザープロファイル内の PST ファイルを始めとする、各 PST ファイルが、約 10 MB の一連のチャンクとして PST 保存フォルダに送信されます。
- PST 移行タスクによって、このチャンクがユーザーのアーカイブに移行されます。
- PST ファイルが正常に移行されると、ファイルにそれ以上のアイテムが追加されていないことが確認されます。PST 移行ポリシーの設定により、すべてのアイテムが移行された後、PST ファイルはユーザーのプロファイルから削除されます。

クライアント主導型 PST 移行を設定するオプション

Enterprise Vault には、PST ファイルの移行に関してユーザーが使うことのできる制御のタイプに応じたクライアント主導型の移行を設定するためのさまざまなオプションが用意されています。

表 7-1 には、クライアント主導型移行を設定するための多様なオプションについての詳細が示されています。

表 7-1 クライアント主導型 PST 移行を設定するオプション

説明	クライアント主導型移行の有効化	検索パス	PST 提出の許可
Enterprise Vault Outlook アドインで、ユーザーによる設定なしで検索された PST ファイルを移行できるようにします。	はい	はい	いいえ

説明	クライアント主導型移行の有効化	検索パス	PST 提出の許可
ユーザーが検出された PST ファイルを移行するかどうかを選択できるようにします。ユーザーは PST ファイルを提出して移行することもできます。	はい	はい	はい
PST ファイルの手動による提出のみを許可します。Outlook アドインによるコンピュータ上の PST ファイルの検索を実行しない場合。	はい	デフォルトでは、Outlook アドインはユーザーのコンピュータ上で PST ファイルを検索します。ただし、すべての関連ローカルドライブ (C:、D:、E: など) を除外することで PST ファイルの検索を停止することができます。	はい

クライアント主導型 PST 移行のための準備

表 7-2 では、クライアント主導型 PST 移行を設定するのに必要な手順を示します。Enterprise Vault では、この他にも、PST ファイルをアーカイブに移行するためのツールが提供されています。

p.11 の「[PST ファイルの移行に使うツール](#)」を参照してください。

メモ: クライアント主導型 PST 移行は、ユーザーのコンピュータでレジストリ値 PSTDisableGrow が有効になっている場合には動作しません。PSTDisableGrow を上書きする方法について詳しくは、『Exchange Server アーカイブの設定』ガイドを参照してください。

表 7-2 クライアント主導型 PST 移行を設定する手順

手順	処理	説明
手順 1	ネットワーク共有にある PST ファイルを移行するには、ディレクトリサービスを実行するアカウントは最小限の権限セットを必要とします。	p.77 の「 ネットワークドライブに保存されている PST ファイルの移行に必要な権限 」を参照してください。
手順 2	PST 保存フォルダを設定します。	p.73 の「 クライアント主導型 PST 移行のための PST 保存フォルダの設定 」を参照してください。

手順	処理	説明
手順 3	PST 移行メッセージを設定します。	p.72 の「 クライアント主導型 PST 移行での PST 移行メッセージの編集 」を参照してください。
手順 4	PST 移行タスクを作成して、一時ファイルのフォルダを設定します。	p.74 の「 クライアント主導型 PST 移行のための PST 移行タスクの作成 」を参照してください。

クライアント主導型 PST 移行での PST 移行メッセージの編集

クライアント主導の PST 移行に対応するメールボックスが有効な場合、Enterprise Vault はさまざまな PST 移行イベントに関するメッセージをそのメールボックスに直接配信します。Enterprise Vault がユーザーのメールボックスに送信する電子メールの種類は、Exchange PST 移行ポリシーでの通知の設定方法に応じて異なります。

インストール中に、メッセージは Enterprise Vault プログラムフォルダ (通常は C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault) 内の次のフォルダに格納されます。

Enterprise Vault\Languages\Mailbox Messages\lang

lang は使っている言語を表します。

メッセージが Enterprise Vault プログラムフォルダにコピーされていることを確認します。そうしない場合、Exchange PST 移行ポリシーで通知を送信するように設定しても、メッセージは送信されません。

[表 7-3](#) に、メッセージと各メッセージが送信される状況を示します。

表 7-3 PST の移行メッセージ

メッセージ	件名と説明
EnablePSTMigrationMessage	Enterprise Vault は、Outlook の個人用フォルダファイル (.pst) を移行する準備ができました [個人用ストアの管理] > [メールボックス] > [クライアント主導の移行を有効化] オプションを使ってクライアント主導の移行に対応するユーザーのメールボックスを有効にした場合は、PST 移行によってこのメッセージが送信されます。

メッセージ	件名と説明
EnabledForPSTImportMessage	<p>メールボックスで Enterprise Vault™ への PST ファイルの送信が有効になりました</p> <p>Enterprise Vault に移行するために PST ファイルの送信をユーザーに許可すると、PST 移行によってユーザーにこのメッセージが表示されます。これを有効にするには、Exchange PST 移行ポリシーのプロパティの[移行]タブにある[PST 提出の許可]チェックボックスにチェックマークを付けます。</p>
PSTAwaitingAuthorizationMessage	<p>必要な処理: Enterprise Vault は、注意が必要な PST ファイルをコンピュータ内で検出しました</p> <p>Enterprise Vault がユーザーのコンピュータ内に、ユーザーによる移行の許可が必要な PST ファイルを見つけると、PST の移行によってこのメッセージが送信されます。</p>
PSTMigratedMessage	<p>Enterprise Vault によって PST ファイル {0} がアーカイブされました</p> <p>PST ファイルが Enterprise Vault に正常に移行されると、PST 移行によってこのメッセージがユーザーに送信されます。</p>

クライアント主導の PST 移行で PST 移行メッセージを編集する方法

- 1 どの言語バージョンのメッセージを使用してメッセージファイルを検索するかを決定します。
- 2 Microsoft Outlook がインストールされているコンピュータで、Windows エクスプローラでメッセージファイルをダブルクリックして、ファイルを開きます。
- 3 テキストをレビューし、必要な変更を行います。
- 4 メッセージファイルを保存します。
- 5 サイトに配置されているすべての Enterprise Vault サーバーで、編集したメッセージファイルを Enterprise Vault プログラムフォルダにコピーします。

クライアント主導型 PST 移行のための PST 保存フォルダの設定

PST 保存フォルダは PST 移行タスクがアーカイブした PST ファイルのための収集領域として使われます。フォルダはネットワーク共有されている必要があり、このネットワーク共有への削除アクセス権を、PST 移行タスクで使うログオンアカウントに付与する必要があります。

PST 保留領域を設定するために使うアカウントは、フォルダを選択ダイアログボックスに一覧表示できるだけの、フォルダに対する十分なアクセス権を持っている必要があります。通常、タスクが使うログオンアカウントと、PST 保存フォルダの設定に使うアカウントにはボルトサービスアカウントが使われますが、別のアカウントを指定することも可能です。

PST 保存フォルダを設定する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、**Enterprise Vault** のサイトプロパティを表示します。
- 2 [全般] タブで、[PST 保存フォルダ] の横の [参照] をクリックします。
[通常の共有] または [隠し共有] のどちらの共有を参照するかを尋ねるメッセージが表示されます。
- 3 PST 保存フォルダに指定する共有の種類を選択し、[OK] をクリックします。
- 4 [フォルダの参照] ダイアログボックスで、[ネットワーク全体] > [Microsoft Windows Network] の順に展開します。目的のドメイン、共有が存在するサーバーの順に展開します。表示される共有の一覧には、アカウントにアクセス権限がある共有フォルダが含まれます。
- 5 PST 保存フォルダに使うフォルダを選択して、[OK] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックして [サイトプロパティ] を閉じます。

クライアント主導型 PST 移行のための PST 移行タスクの作成

検索移行型を設定している場合は、すでに PST 移行タスクが作成されており、このセクションは無視してかまいません。まだ検索移行型を設定していない場合は、このセクションを順番に進めていく必要があります。

メモ: ストレージサービスをホストし、PST ファイルを移行する予定のアーカイブを管理する各 **Enterprise Vault** サーバーで、PST 移行タスクを設定する必要があります。移行処理で PST ファイルの移行が実行されると、アーカイブ先を管理する **Enterprise Vault** サーバーで移行処理が実行されます。

PST 移行タスクを作成する方法

- 1 管理コンソールで、[Enterprise Vault サーバー] コンテナが表示されるまでサイトを展開します。
- 2 [Enterprise Vault サーバー] を展開し、PST 移行タスクを追加するサーバーを展開します。

- 3 [タスク]を右クリックし、ショートカットメニューで[新規作成] > [PST 移行タスク]の順にクリックします。

新しい PST 移行タスクウィザードが起動します。

- 4 ウィザードに従って操作します。

移行時に PST ファイルの一時コピーの保存に使うフォルダの場所を指定する必要があります。このフォルダはローカルドライブ上に存在する必要があります。PST 移行タスクの実行に使われるアカウントには、フォルダに対するフルアクセス権が必要です。

メモ: PST 移行タスクが実行されている間、またはクライアント主導型移行によって PST ファイルが処理されている間は、このフォルダの場所を変更しないでください。

クライアント主導型 PST 移行のためのメールボックスの有効化

Enterprise Vault には、メールボックスのクライアント主導型移行を有効にするウィザードがあります。同時に少数のメールボックスを有効にできるため、適度な数の PST ファイルを一度に処理できます。

クライアント主導の PST 移行をメールボックスで有効にすると、該当するユーザーが次回に Outlook を起動するときに、Enterprise Vault Outlook アドインは PST ファイルのスキャンを開始します。

すべてのクライアントコンピュータが検出した PST ファイルの一覧は、管理コンソールにおいて、[個人用ストアの管理]の下で[ファイル]コンテンツに表示されます。

検出された PST ファイルは、Enterprise Vault Outlook アドインの Enterprise Vault PST 移行ページにも表示されます。Exchange PST 移行ポリシーの設定方法に応じて、ユーザーはファイルの移行状態を表示し、移行用のファイルを選択できます。

メールボックスでクライアント主導の PST 移行を有効にする方法

- 1 管理コンソールの左ペインで [個人用ストアの管理]を展開します。
- 2 [メールボックス]を右クリックして、[クライアント主導の移行を有効化]をクリックします。

メールボックスでクライアント主導の PST 移行を有効化ウィザードが起動します。

- 3 ウィザードに従って操作します。

このウィザードでは、次の操作が求められます。

- クライアント主導の PST 移行を有効にするメールボックスがある Microsoft Exchange Server コンピュータを選択します。

- クライアント主導の PST 移行を有効にするメールボックスを選択します。
- 4 クライアント主導の移行ために選択したメールボックスを有効にし、このウィザードを終了するために[完了]をクリックしてください。

PST ファイル提出のためのメールボックスの有効化

Exchange PST の移行ポリシーの設定により、ユーザーがコンピュータ上の PST ファイルの移行をよりコントロールできるように設定できます。PST 移行ポリシープロパティで [PST 提出の許可] オプションを選択すると、Enterprise Vault Outlook アドインの次の機能が有効になります。

- [PST ファイルを手動で追加する] ボタンが、[PST 移行] ページに表示されます。このボタンは、ユーザーがコンピュータおよびネットワーク中の PST ファイルを参照し、Enterprise Vault に移行することを許可します。
- Enterprise Vault が検出した PST ファイルはすべて [PST ファイルの移行] ダイアログボックスにリストされ、ユーザーは PST ファイルを Enterprise Vault に移行するかどうかを選択できます。

メールボックスで PST ファイルの提出を有効にするには

- 1 管理コンソールで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [ポリシー] > [Exchange] > [PST 移行] の順にクリックします。
- 3 編集する PST 移行ポリシーを右クリックし、[プロパティ] を選択します。
- 4 [移行] タブの [クライアント主導型移行] セクションで [PST 提出の許可] を選択します。
- 5 移行対象の PST ファイルの保持カテゴリを変更することをユーザーに許可する場合は [保持カテゴリの上書き許可] を選択します。

メモ: Enterprise Vault には保持フォルダや分類機能など、指定した保持カテゴリを上書きできる機能があります。保持について詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。

- 6 [検索パス] をクリックして、PST ファイルの検索時に Enterprise Vault Outlook アドインによって含められるまたは除外されるパスを指定します。
- 7 [OK] をクリックします。

ネットワークドライブに保存されている PST ファイルの移行に必要な権限

この機能を設定すると、Windows ベースの共有と NetApp Filer に格納されている PST ファイルを移行できます。

Windows 共有から PST ファイルを移行する場合、ディレクトリサービスを実行するアカウントはファイルサーバーの次のいずれかのセキュリティグループのメンバーである必要があります。

- Administrators
- Server Operators
- Power Users

NetApp Filer から PST ファイルを移行する場合、ディレクトリサービスを実行するアカウントは NetApp Filer の Administrators グループのメンバーである必要があります。

NetApp Filer の autolume 機能を使用する場合は、次のテクニカルノートを参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100002054>

次の場所でホストされているファイルは移行できません。

- Windows 以外のファイルサーバー (NetApp Filer 以外)
- Data ONTAP 8.0 以前のバージョンの Data ONTAP を実行する NetApp vFiler デバイス
- 分散ファイルシステム (DFS) 共有